

平成 27 年度
厚生労働省委託事業
報告書

Global ACE
Global Action for Careers and Employability
グローバル エース

海外体験を生かしたキャリア形成事例分析 (平成 27 年度版)



平成 28 年 3 月



一般社団法人海外留学協議会 (JAOS)
Japan Association of Overseas Studies

はじめに

当事例分析は、一般社団法人海外留学協議会（以下、JAOS（ジャオス）と呼ぶ）が平成27年度に厚生労働省から委託された事業『平成27年度勤労青少年の国際交流を活用したキャリア形成支援事業』（通称「Global ACE（Global Action for Careers and Employability）」）で、海外インターンシップやワーキング・ホリデー、語学研修等の海外就業体験をする若年者に対して、渡航前から帰国後まで実施したキャリア・コンサルティングの事例を分析したものです。

3年目となりました当事業では、過去2年間の経験を生かし、支援対象者のエンプロイアビリティ向上に資するサポートをしてまいりました。

今年度の事例分析では、当事業のサポートを経て就職に至った好事例や就職活動の在り方、その後の就業状況などについても触れ、就職はもとよりその後のキャリアデザインも視野に入れた内容といたしました。

今年度の事例分析も、海外就業体験に係わる関係者の皆様にとって何かしらご参考になれば幸いです。

本書の刊行に際し、多くの関係各位に多大なご協力ご支援を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

平成28年3月

一般社団法人 海外留学協議会

用語集

用語	解説
海外インターンシップ	主に若年者が有償・無償にかかわらず、海外の企業や NPO、教育機関等での仕事を体験することの総称。
ワーキング・ホリデー	青少年が渡航先国の文化等を理解するための概ね 1 年間の滞在と、その滞在費を補うための就労を認める相互協定。現在 12 カ国との協定がある。
海外就業体験	ワーキング・ホリデーや海外インターンシップ以外にも、就業体験できるビザ（制度）があり、それらの総称。
海外渡航支援機関	留学、ワーキング・ホリデーや海外インターンシップ、語学研修などのサービスを提供する留学エージェントや旅行業者などの機関。
TOEIC	主に日本と韓国の企業で英語力測定の基準となっているテスト。採用試験でスコアを問われることがある。満点は 990 点。
キャリア・コンサルティング	「個人が、その適性或職業経験等に応じて自ら職業生活設計を行い、これに即した職業選択や職業訓練等の職業能力開発を効果的に行うことができるよう個別の希望に応じて実施される相談その他の支援」のこと（引用：平成 19 年度厚生労働省「キャリア・コンサルタント制度のあり方に関する検討会」報告書）。
ジョブ・カード	履歴シート、職務経歴シート、キャリアシートなどからなるファイルのこと。記入したジョブ・カードをもとにキャリア・コンサルティングを受けることで、自分の職業能力・職業意識やキャリア形成上の課題が明確となり、就職活動やその後の安定雇用に役立てることができる。 厚生労働省 HP からダウンロードができる。
コーチング	「傾聴」「質問」「承認」等のコミュニケーション技法を用いて、若年者の意欲・能力を引き出す手法。当事業では渡航前～帰国後まである程度の期間にわたり担当のコンサルタントが寄り添いながら当人の能力を引き出すサポートをするため、コンサルタントの支援を“コーチング”と呼んでいる。
一般社団法人 海外留学協議会（JAOS）	留学手配会社、大使館、語学学校等広く留学に関わる者が集まり、諸問題の解決と安心できる留学の実現を目指す団体。

目次

はじめに	1
第1章 目的と概要	4
第2章 支援対象者の情報	7
1. 支援対象者の属性	7
2. 就職先情報	9
第3章 就職成功者の事例分析	10
1. コンピテンシー向上の成果と要因	10
2. 就職活動の統計データ	25
3. タイプ別渡航者の特徴と各タイプへのキャリア・コンサルタントの関与	26
4. 海外体験の棚卸し事例	35
第4章 就職活動のあるべき姿	38
1. 渡航前	38
2. 滞在中	39
3. 帰国後	40
第5章 就職成功までの軌跡とその後	41
1. インタビュー概要	41
2. インタビュー結果	43
第6章 相談事例	74
第7章 就職活動で苦戦する人の傾向	80
第8章 総括	85
おわりに	87

第1章 目的と概要

1. 背景

少子高齢化に伴う国内市場の縮小や、事業のボーダレス化の進展により、大手企業を中心にますますグローバル化が進む中、中小企業などでも海外展開の必要性が高まってきている。しかしながら特に中小企業では海外で事業展開を担える人材や国内でも海外に関わる業務を担える人材が不足しており、グローバル人材への求人ニーズは今後一層高まることは必須である。

実際に、バイリンガルのための転職・求人情報サイトを運営するダイジョブ・グローバルリクルーティングがまとめた2016年2月末時点のデータでは、グローバル転職に関する求人数、転職希望者数共に過去最高を記録した。ここでの「グローバル転職」とは、2カ国語以上の言語でビジネスレベル以上のスキルを条件とする求人を指すが、同社が、その求人とそれに見合うスキルを持つ転職希望者の需給を算出した「グローバル転職求人倍率」を公表している。

3年目となる『平成27年度 勤労青少年の国際交流を活用したキャリア形成支援事業』（通称「Global ACE(Global Action for Careers and Employability)」）では、過去2年間の経験や調査研究の知見を生かし、渡航前から帰国後までの一貫したキャリア・コンサルティングのみならず、渡航前ガイダンスの実施や帰国後の求人企業の紹介など領域を広げた支援を実施した。

2. 目的

当事例分析集では、Global ACE参加者のうち2015年度に就職が決まった者を対象に、キャリア・コンサルティングの事例を元に、企業が求める人材に必要とされる能力・資質をどのように習得し、エンployアビリティを高め、就職後にどう生かしているかについて分析を試みた。

渡航者本人のみならず、若年者を海外へ送り出す側や、帰国後に採用する側、キャリア・コンサルタントなどを対象に、グローバル人材育成や若年者の雇用創出につなげる一助となることを目的とする。

3. Global ACE で定義する海外就業体験・コンピテンシー

Global ACE では、社会人基礎力や産業界が求める人材像、海外就業体験で習得できる能力を踏まえ、企業が求める能力・資質に見合ったコンピテンシー（海外就業体験版）を定義している。

(1) 語学力

- ①外国語で日常会話ができる
- ②外国語の新聞、広告、パンフレット、カタログなどから必要な情報を見つけることができる
- ③外国語で感謝や謝罪の気持ちを表した手紙を書くことができる

海外生活の成果としては最もわかりやすい能力と言えよう。TOEIC等で英語コミュニケーション能力を客観化することが望まれる。高評価であれば、グローバル志向の企業の就職活動にも優位に働かせることができる。

(2) 異文化適応力

- ①異文化に興味をもち、溶け込むことができる
- ②自分とは異なる意見を持つ人を柔軟に受け入れることができる
- ③異なる文化の習慣、思考方法の違いなどを認め合うことができる

企業で重視され始めているダイバーシティー（多様性）と最も関連がある項目である。文化の違いを受け入れ、認め、尊重し合うことができるかどうかはグローバル人材にとって必要不可欠な部分である。多国籍の人々と仕事を進める機会が増えてくる中で、知識としての文化やルールを理解等、最低限度の知識を身に付けることが重要であろう。

(3) 論理的思考力

- ①発言の筋道を立てて話をすることができる
- ②相手の意見を要約して、自分の言葉で言い替えることができる
- ③事実やデータに基づいてものごとを考え、表現することができる

コミュニケーションを図る上での世界標準のフレームワークとして位置付けている。相手にいかにわかりやすく伝えるかはグローバルコミュニケーションにおける共通要素である。日本人特有の場や雰囲気を読む能力は異文化の人々には通用しないことは認識しなければならない。言葉と数字を駆使しわかりやすく組立ててプレゼンテーションをすることにより相手の理解と共感が得られる。

(4) ストレス対応力

- ①ストレスを感じることがあっても、ポジティブに捉えて対応できる
- ②自分の感情をコントロールできる
- ③ストレスを感じることがあっても、誰かに助けをもらいながら努力して乗り越えることができる

異国の地に身を置くことで様々の軋轢や戸惑いが生じる。このような困難な状況を乗り越えることでこの能力を養うことができる。ストレスの処し方で重要なことはポジティブに捉えることができるかどうかである。どんな状況に陥っても良い意味で開き直すことができ、今の自分が一皮剥けるチャンスであると捉えることができるかがポイントとなる。

(5) 主体力

- ①適切な質問によって、自分が知りたい情報や相手の意見を引き出すことができる
- ②アルバイトやボランティア、各種アクティビティ等に積極的に参加したり、他者との交流を図ることができる
- ③目的を明示し、周囲にはたらきかけ、積極的な行動を促すことができる

特に日本人に見受けられる、質問をしないことが美徳のような考えは世界では通用しない。またあらゆる機会に主体的に取り組むことで限られた期間でも大きな糧となりリーダーシップを養うことにもつながる。

(6) 提案力（創意工夫する力）

- ①日々の業務の中から問題を発見し、新しい解決方法を提案することができる
- ②業務の中での課題を、周囲を巻き込みながら解決することができる
- ③業務や仕事に関する建設的な提案をすることができる

現状を決して満足することなく、いつでも創意工夫し改善していこうという意識が大事である。これが「変革」に繋がっていく。目的意識・危機意識・当事者意識を持っているかどうかは鍵となる。これらの意識があれば、問題発見、問題解決、新しい価値創造へと繋がっていくであろう。提案を通すためには周りを巻き込んでいくリーダーシップ力（統率力）も兼ね備える必要がある。

(7) コミュニケーション力

- ①自分の意見を的確に伝えることができる
- ②相手の意見を丁寧に聞いて意思の疎通ができる
- ③場面に応じて適切に伝達手段（口頭・Eメール・SNS・電話）を活用することができる

コミュニケーション力とは「話す力」だけではなく「聞く力」も重要である。きちんと相手の話を聞くことができなければ、的確な問題解決ができない。その意味で、傾聴する力がベースとなる。今後はコミュニケーションツール（情報発信ツールおよび情報収集ツール）を上手に使いこなせるかどうかにも必要となる。ITリテラシーの高さも間接的であるが要求されるだろう。

(8) 実行力（チャレンジする力）

- ①ものごとくに粘り強く取り組むことができる
- ②目的の達成に向かって、失敗を恐れずにチャレンジすることができる
- ③自ら目標を設定して、計画的にやり遂げることができる

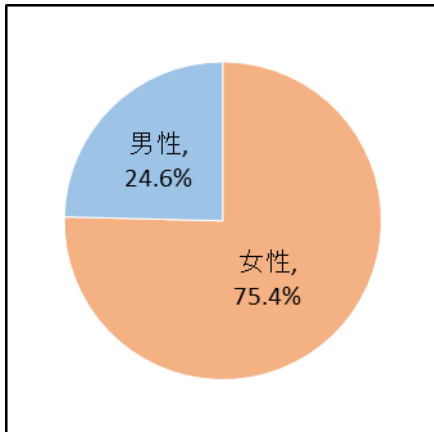
計画だけで終わらず、勇気を持って走り出し、きちんと成果を出すまで遂行できるかどうかは重要である。臆して実行に移さなければ何も変わらない。海外体験を通じて新しい事に果敢に挑戦していくことで養われていくであろう。ますます多くの企業がグローバル展開していく中で、未開の分野を切り開いていく人材は重宝されると思われる。

第2章 支援対象者の情報

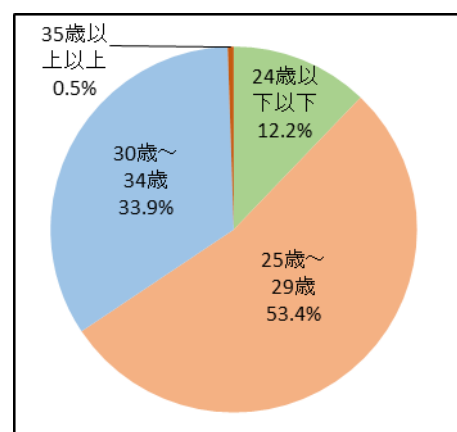
1. 支援対象者の属性

平成 27 年度に支援を受けた 378 名（平成 28 年 3 月現在。平成 26 年度の申込者も含む）に関する、性別、年齢、参加プログラム、渡航国、渡航動機などは以下の通りである。

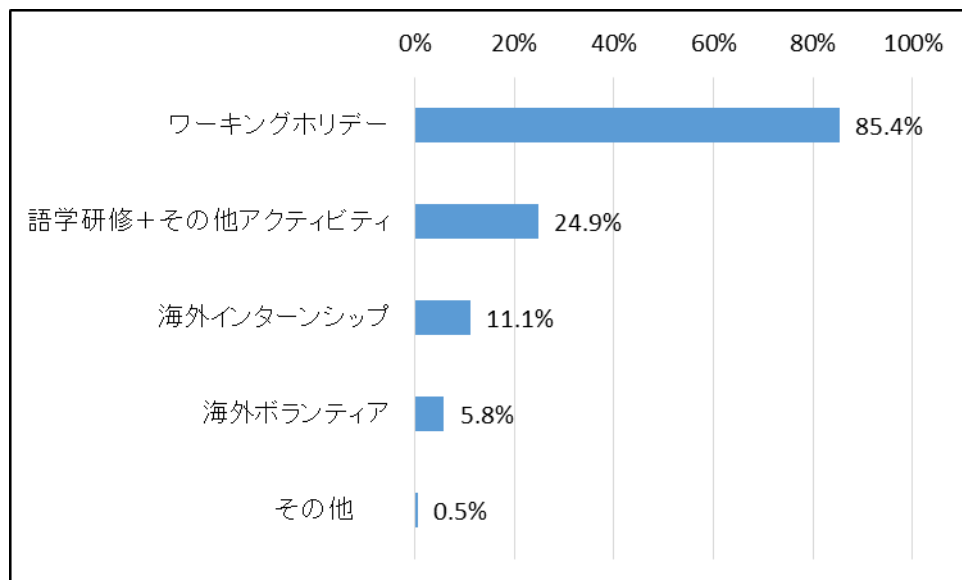
図表 2-1 性別の内訳



図表 2-2 年齢の内訳

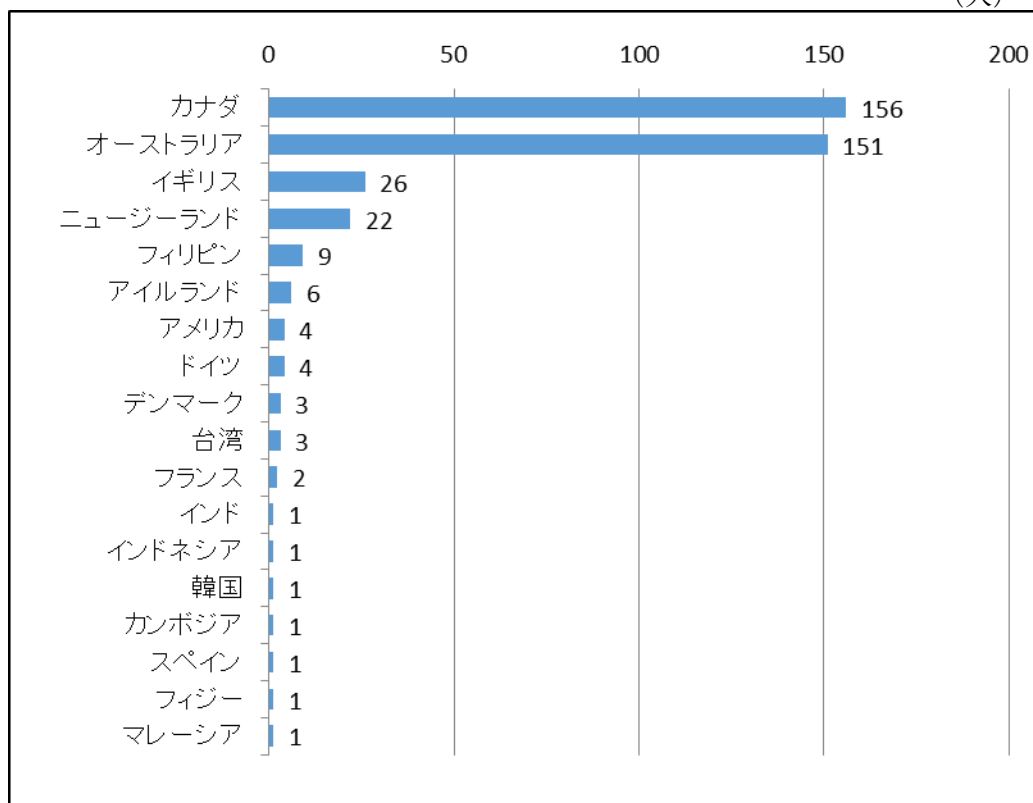


図表 2-3 参加プログラムの内訳（複数回答）

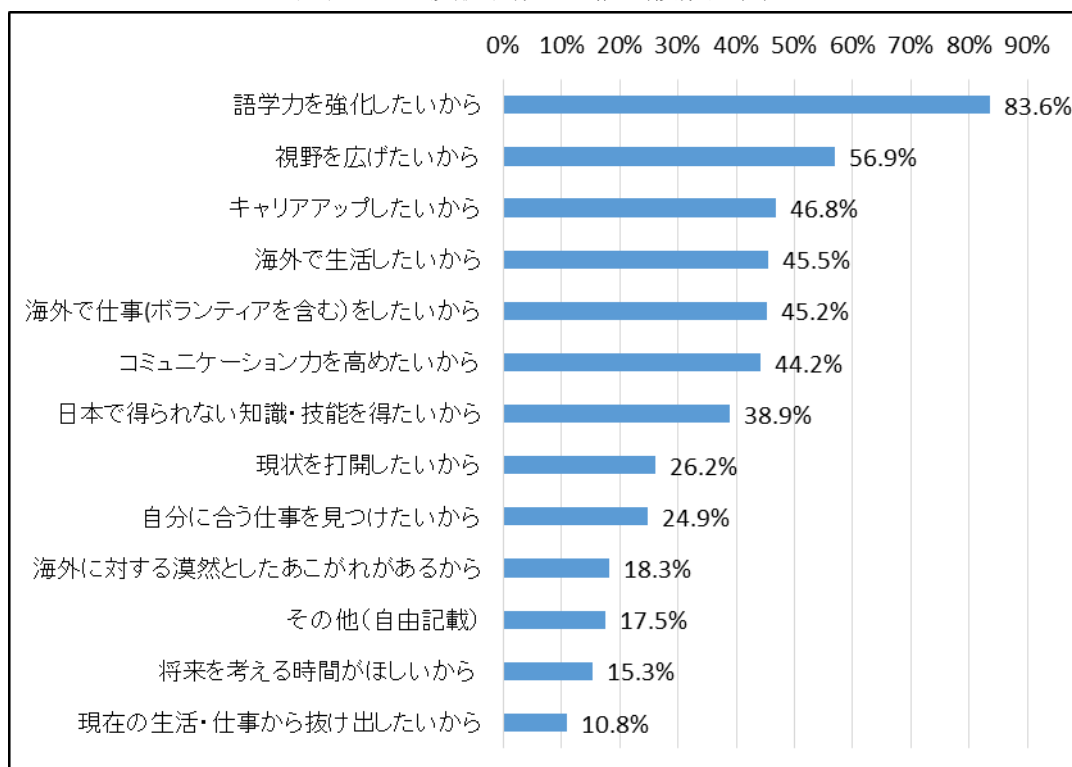


図表 2-4 渡航先国の内訳（複数回答）

(人)



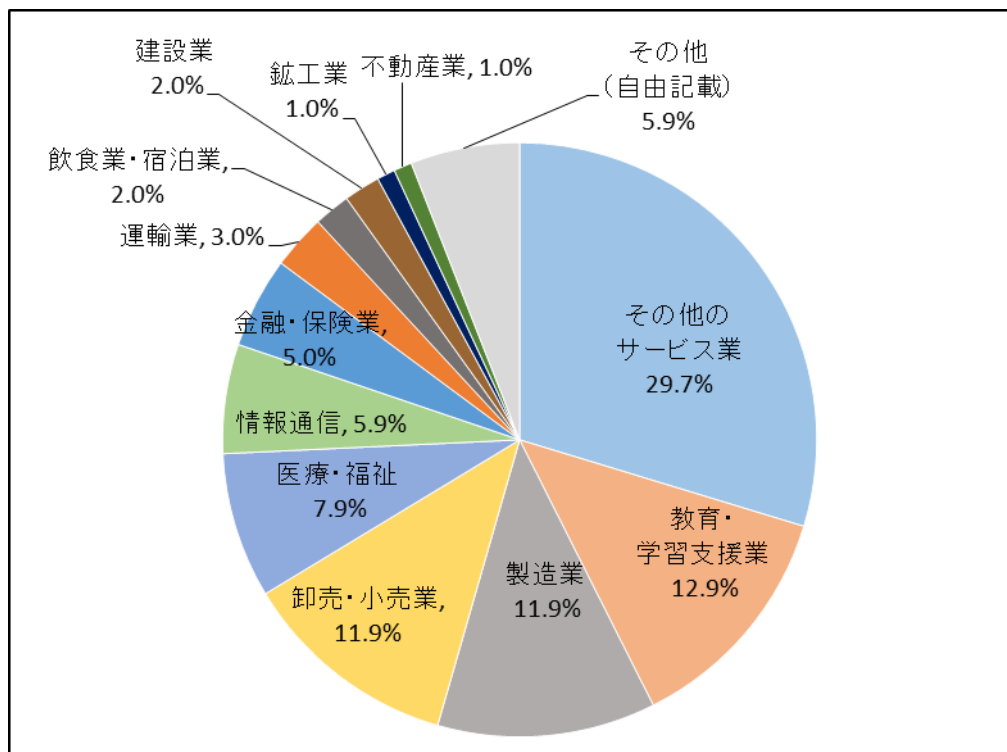
図表 2-5 渡航動機の内訳（複数回答）



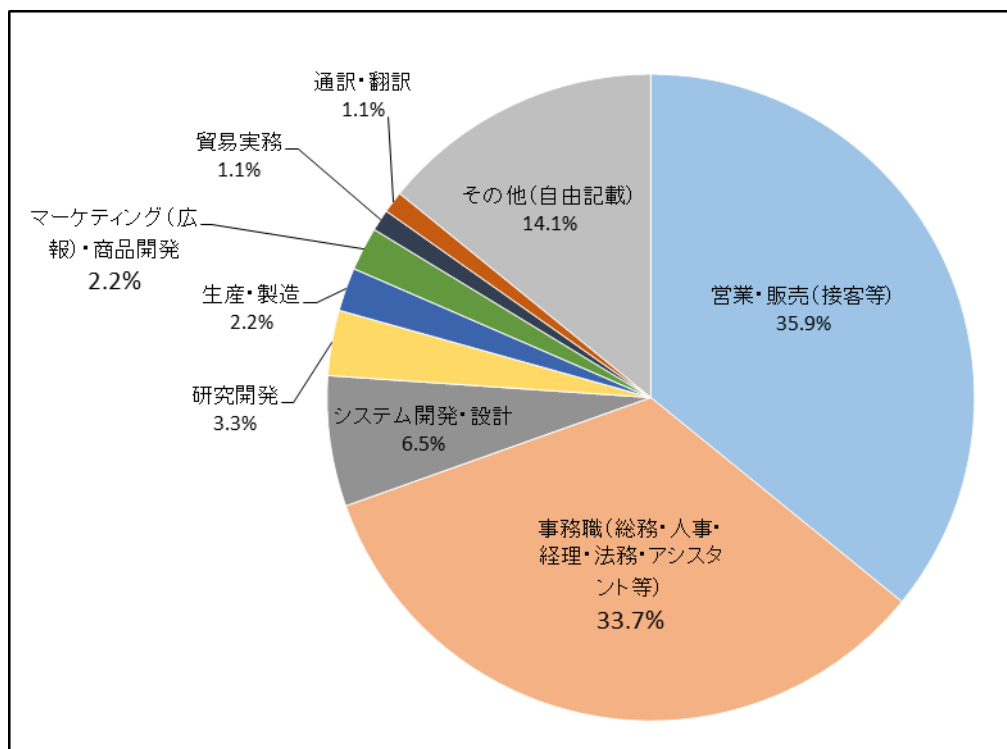
2. 就職先情報

平成 27 年度中に就職の報告があり、就職先の業種や職種が判明している者は以下の通りである。

図表 2-6 就職先業種 (N=101)



図表 2-7 就職先職種 (N=92)



第3章 就職成功者の事例分析

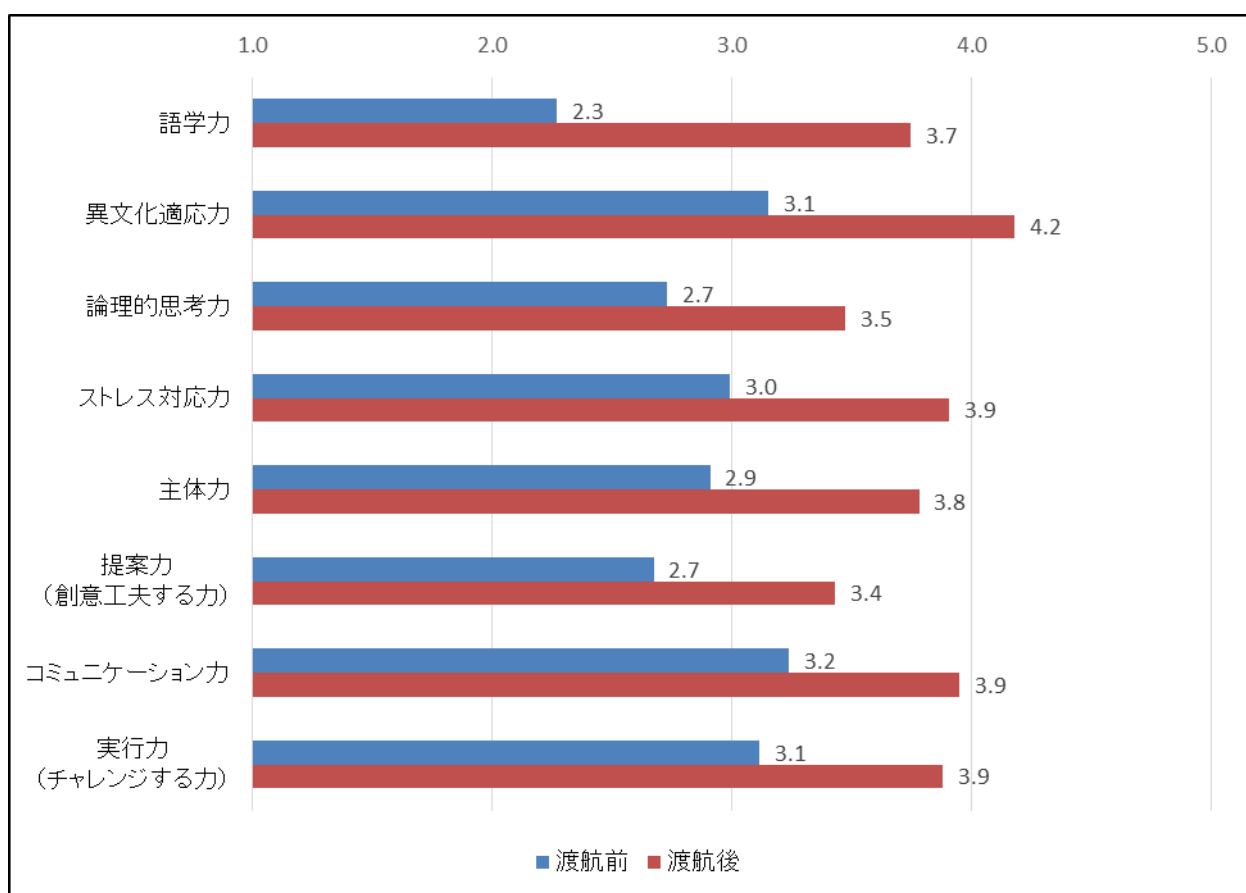
1. コンピテンシー向上の成果と要因

(1) コンピテンシー向上の度合い

Global ACE で定義する 8 つの能力について、そのレベルを渡航前と帰国後の各時点で 5 段階（1「ほとんどできない」、2「20～30%程度できる」、3「50%程度できる」、4「70～80%程度できる」、5「ほとんどできる」）で自己評価した結果をグラフで示す。

最も向上したのは、1.4 ポイント増の語学力であった。次に異文化適応力（1.1 ポイント増）、ストレス対応力、主体力（ともに 0.9 ポイント増）、論理的思考力、実行力（ともに 0.8 ポイント増）と続き、0.7 ポイント増は、提案力、コミュニケーション力であった。

図表 3-1 能力開発成果の自己評価



(2) コンピテンシー別の成果と要因

各コンピテンシーが、どのような要因でどの程度向上したのかを一部紹介する。

■語学力

	成果	要因
①外国語で日常会話ができる	渡航前と比べ、常に英語で考え、とっさのしゃべりだしもあまり考えずコミュニケーションをとることができるようになった。	渡航前は英語を使う場面は限られていたが、渡航中は日本語を使用する場面の方が限られ、自然と英語で考え、英語でコミュニケーションをとることが日常になった。
	バスを待っている時などに知らない人にたわいのない事で話しかけられても対応することができた。	常にスピーキング力を高めようという意識をもっていた。
	・ビジネスで使える英語力が強化された。日本と海外におけるビジネスの進め方の違いを学んだ。 ・ Cambridge English Exams (FCE) 合格。	・グローバル製薬関連企業での有給インターンシップにて医薬品の安全性情報に関する業務に携わった(約6ヶ月)。 ・語学学校で4つのコースを受講(約6ヶ月)。
②外国語の新聞、広告、パンフレット、カタログなどから必要な情報を見つけることができる	必要な情報を多くのリソースの中から見つけることができる。英語の物語を読み理解することが出来る。	現地での家探しや旅行の手配など全て自分で英語で情報収集した。また、たとえ知らない単語があっても前後関係や文全体から意味を想像し理解するようにした。
	英語のパンフレットを読むことに億劫を感じなくなった。特に興味のある分野なら積極的に読みたいと思えるまでになった。	英語環境に浸っていた。たとえば、スマホの設定も英語にして、日常生活にも英語を読まなくてはならない状況をつくった。

	・業務上必要な英語表現を習得した。 ・帰国する頃には英字新聞にさっと目を通して、内容を理解できるようになった。	・就職時に渡された契約書から始まり、仕事で目を通さなければならぬ書類がたくさんあった。 ・毎日通勤時に新聞を読むことを習慣にしていた。また、日ごろから説明できない単語を目にするとすぐに調べたり、書きとめておいて後で調べるようにしていたことが、語彙力の強化に繋がった。
③外国語で感謝や謝罪の気持ちを表した手紙を書くことができる	友人に宛てる手紙は不自由なかったが、ビジネス文書や英語ならではの言い回しも使えるまでになり、今まで以上に自然な手紙が書けるようになった。	IELTS の試験を受けるために Writing の練習をした。
	SNS などの英語での投稿も時間をかけずに投稿できるようになった。	外国人の友達が使っているフレーズをまねしたり、メモを取ったりして、自分でも使えるようにした。
	学校のコースを修了する時にお世話になった人たちに英語で御礼の手紙を書くことができた。	“Thank you” 以外の言葉で御礼をできるだけ伝えるよう努力した。

■異文化適応力

	成果	要因
①異文化に興味をもち、溶け込むことができる	最初は日本とは違う作法や考え方に戸惑ったが、徐々に異文化を理解できてきて、進んでその文化に触れなくなった。	相手の文化を理解する以前に、自分の文化や風習を十分理解することで、言葉が違えば文化は全く違うのだと気づき、それから積極的に相手の文化に興味を持つことができるようになった。

	1 年間、失敗と成功を繰り返す中で理解できないことにも動揺することが減った。渡航直後は周囲の話やそれにまつわるギャグや冗談などが理解できずにいたが1年暮らす中でより多くの文化の背景を知ること、冗談も一緒に笑えるようになった。	人が集まるところには積極的に参加し、特に後半は異文化だと感じた時にはその気づきを声に出すようにし、自分が適応しようと努めていることをさりげなく相手に伝えた。
	自分の知らない文化への興味がより増し、それについて質問し、理解するようになった。また日本では興味がなかった宗教について、色々な国の人々と触れ合うことで興味を持ち、自分で調べるようになった。	世界各国出身（15 カ国ほど）の友人ができ、彼らと過ごすことで、彼らの文化・宗教・言語に興味を持った。また各地を旅行して自分の見聞を広めた。
②自分とは異なる意見を持つ人を柔軟に受け入れることができる	最初は、変わった考え方や行動をする人が多くいて、日本とはあまりにも異なるので理解に苦しんだが、徐々に自分とは異なる意見を持つ人を柔軟に受け入れることができるようになった。	自分の意見を持つということの重要性に気づいた。例外的外れだとしても、海外では自分の意見を持ち、それを発言するということがとても大切だと気づき、それからは相手の異なる意見なども柔軟に受け入れるよう努力した。
	中にはただのわがままを言う人がいたが、冷静に考えて間違っているときに譲ることは辞めた。	言いなりになっている方が楽なこともあるが、振り回されるのが理不尽に感じられたため。
	海外に出ると意見の違いというか、そもそも常識が違うというところからどのような人でも受け入れることができるようになった。	日本の常識が海外では通用しないこと、一人ひとりの個性が強いということから、認め合ってその中でお互い意見をすり合わせていくしかないという考えに行き着いたため。

③異なる文化の習慣、思考方法の違いなどを認め合うことができる	異文化に理解を深めるには歴史や宗教、政治に関心を持つことが不可欠であり、関心を持って丁寧に話すことができれば、ほとんどの場合、相手の方から話をしてくれることがわかった。	学校の友人や職場の同僚に、政治や宗教観、価値観について話題を出し、理解を深めようとした。
	時間や約束に対する重みの置き方に異文化を感じていたが、頻発する予定の遅れや中止、変更に動揺することが減った。事前に変更する可能性を予測するようになった。	たくさんの人と長く関わることで国民性や地域性、また個々の差も理解するようになった。
	認める、認めないではなく、「そういうものだ」と捉え、受け入れることができるようになった。	人との接し方や考え方の違いが大きすぎて全く別の次元というようなことがあり、無理に全てを受け止めようとはせず、それはそういうものの、知っておけばいい、という姿勢が身についた。 全てを理解し認め合うという姿勢は、一生を共にするパートナーや、長く付き合っていきたい友達のみで十分という考え方になった。
	認める認めないという価値概念ではなく、事実として認識できるようになった。	自分は無宗教のため、宗教に関することには疎く、それにより文化や習慣は大きく異なるのだというのを知らなかった。しかし、イスラム人があれほどお祈りに時間を割き、真面目にするものだということを目の当たりにし、無宗教の自分には分からない信仰心をみることができた。

■論理的思考力

	成果	要因
①発言の筋道を立てて話をすることができる	日常会話ができる程度であったが、今は状況説明や自分の感情も含めながら論理的に説明できるようになった。 また、言い返されたり誤解されても、冷静に受け止めて相手に伝わるまで意見を伝え続けることができるようになった。	生活していく中で、伝えようとすれば伝わるものなのだと少しずつ自信がついた。 また Writing の勉強をした時に、段落の作り方や結論への導き方も学べたことが speaking の向上にもつながった。
	結論から話すようになった。	困ったことがあり窓口に問い合わせた時に、自分に起こった事を詳しく説明している最中に、何が言いたいのかわからないと英語で言われた。それから結論から先に言うように心がけた。
	何を聞かれているのか瞬時に判断し、話しながら頭の中で整理し、相手に伝わりやすく話すことができるようになった。	違う言語を学び、それぞれの特徴を理解することで、母国語である日本語も上達した。
②相手の意見を要約して、自分の言葉で言い替えることができる	理解を示す為、自分の言葉に言い換えて、相手に確認することが出来る。	学校・引越し・旅行、資格取得等の申し込みなど、日常生活の中で、理解を示すこと、分からないことを確認することが常に必要だった。
	分からないことをそのまま流さず自分の知っている言葉で確認できる。	わからない英単語の意味を文脈から推測し相手に確認しなければいけない場面が多かった。
	相手の意見をよく聞き、それを自分なりに噛み砕いたり、イメージする力は渡航前よりついた。また、ポイントをまとめて、自分の分かる単語で言い換える力もついた。	英単語をすべて理解しているわけではないので英語で話を聞くことは難しい。ゆえに相手の話を聞き、自分の中でイメージをして、それがあっているか自分が使える単語を使って確認する必要があった。

③ 事実やデータに基づいてものごとを考え、表現することができる	自分だけの基準ではなく、調べて一般的な話として表現できるようになった。	日本全体のことを聞かれるので、自分の感覚だけでなく調べて伝えるようにした。
	事実と意見の違いやデータの抽出作業を速く行うことが出来るようになった。また、事実・データに基づいて説明することに慣れた。	語学学校のプレゼンテーションの授業で、事実・データを整理することを多く行った。 また、語学学校の授業で、Fact(事実)と Opinion(意見)を分けて話した。

■ ストレス対応力

	成果	要因
① ストレスを感じる事があっても、ポジティブに捉えて対応できる	以前よりもストレスを感じる事があっても、目的意識を持つことで、ポジティブに切り替えることができるようになった。	日本では仕事上の悩みをオフの間も悩んでしまうようなことが多かったが、海外での様々なトラブル、失敗を解決することで、自己解決能力が向上し、目的意識を明確に持てるようになった。
	ストレスを感じる事自体が減った。また、ストレスを感じたとしても、それを必要以上に深刻に考えることが減った。	ワーホリに行く前に、心の中で「いろんなことを受け入れる」「出会う人に対して好き嫌いをしない」という誓いを立て、実際に多くのことを受け入れたので、自分の許容量が大きくなった。良い意味で現地の人びとのおおらかな性格がうつった。また、「何が起きても何とかなる」という自信もついた。
	専門学校で先生に英語力の低さを指摘されたが、いつか誰かに言われることを今言ってもらえたと思えた。	英語力に関して明確な目標があって、達成したい思いが強かった。
② 自分の感情をコントロールできる	議論する必要性を感じた時に、例えば相手から一方的に主張されたり、意見をぶつけられて、自分が怒りや不満を感じても、まずは相手の意見を全て受け止めるような姿勢を取り、	様々な文化・価値観を持つ人と一緒に暮らしていると、時に大きな勘違いを呼び衝突することもある。その中で感情のコントロールは不可欠であり、相手に理解してもらうため

	最後まで話を聞いてから自分の意見を冷静に伝えることが出来る。	にまずは「聞く」という姿勢が大事だと気づいた。
	以前に比べ、相手がどう考えているか憶測で悩む時間を減らせるようになった。また聞くことにより、自分の気持ちもすっきりするようになった。	気になったことはすぐ聞くようにして、無駄に考える時間を減らした。気持ちの切替えはまだ課題と思われるが、質問することに抵抗感はかなりなくなった。
	喜怒哀楽を出せるようになった。また、率直に意見を言って、話し合うことが出来るようになった	意見を言わないとやっていけないと思った。また、周りを気にせず自分の感情を出した。
	お互い譲り合いながら他人との共同生活を楽しむことができた。	ホームステイやルームシェアで他人と生活した。
	気分が沈む・または激昂することがあっても、一時的なことであると考えられるようになった。	気分に変調をきたす要因は思いのほか小さなことだと思えるようになった。また、怒っても仕方ないことがわかるようになった。
③ストレスを感じる事があっても、誰かに助けをもらいながら努力して乗り越えることができる	自分が感じているストレスを人に相談し、改善できるようになった。	以前は、自分が悩んでいることを人に話さなかったが、それでは自分を知ってもらえないと思い、あまり気にせず、人に話すようにした。そのことで気持ちを整理することができるようになった。
	人に頼ることや甘えることが苦手だったが、渡航中、何度も人に頼れた。	もともと頼ることは人に迷惑をかけることという気持ちがあり、人に頼ることが苦手だった。しかし、人に頼ることは相手にとっても人の役にたてて嬉しいと覚えることもあったと知った。
	人にアドバイスを願う・聞くことに対する躊躇が減った。	人と積極的に話すことを心がけたので、人と話すことへの恐怖が減った。そして、出会った人々から色々な良いアドバイスや励ましの言葉をもらった。

■主体力

	成果	要因
①適切な質問によって、自分が知りたい情報や相手の意見を引き出すことができる	5W1Hは基本。わからないことはとにかく聞く。聞く相手を見極めれば旅行者である自分にも役立つ情報が得られた。	小さな町で会話が一番の情報源だった。黙っていても情報が入ってくる住人と違い、質問して聞き出す必要があった。
	日本では遠まわしな表現を使っていたが、外国語でわかりやすくするためストレートな表現を使うようになった。 意思のすれ違いが生じないよう、あいまいな返事ではなくはっきりした明確な意見が聞けるようになり、より深い人間関係を築くことができた。	不慣れな外国語だと勘違いが生まれやすく、それを避ける必要があった。
	遠慮などの余計なためらいがなくなり、伝わりやすい明確な質問ができるようになった。	はっきりと意見を主張し、それについて討論する環境だった。
	以前に比べ質問できるようになった。	インターンシップ中、仕事を進めるにあたり、ミスをなくすためわからないことはわかるまで聞くようにした。
②アルバイトやボランティア、各種アクティビティ等に積極的に参加したり、他者との交流を図ることができる	授業後に学生を集め、定期的に雑談会を開いたり、写真サークルを設立して異文化交流の機会を作った。学校からはその主体性が認められ、学校外活動の引率を何度も頼まれた。また、組織やリーダーをどうサポートしていくかの理解にもつながった。	目標を掲げて、周りを巻き込んで活動することがいかに難しいかを実感した。例えば雑談会では、特定の国籍だけが集まらないように調整しようとしたが、自分の手の届かないところで参加者が増えていってしまい、手に負えなくなってしまった。全てを自分だけでやり遂げようとしたのが失敗だった。役割を分担したり、アドバイスをもらうようにすべきであることを痛感した。

	ヨガ、フラフープ、演奏、アート、近所友人たちとの集まりなど物理的に自分がいけると思うところにはかなり積極的に参加した。ほとんどの場合交流を図れるようになった。	交通や用具、チケットの有無などで物理的な理由で参加できないイベントが多かったため良い意味で食欲になった。
	仕事後や週末は職場、学校、ホームステイ先、シェアハウス等の友人と積極的に出かけ、交流を深めた。	職場、学校、ホームステイ先、シェアハウス等で人間関係に恵まれた。
③ 目的を明示し、周囲にはたらきかけ、積極的な行動を促すことができる	日系センターのアルバイトで、後半に仕事の自己評価を行なって提出し、そこで自分自身の課題を知ることが出来た。 パブリックスピーキングクラブにおいては、「タイムマネジメント」や「アイコンタクト」等の課題が浮かび上がり、また、5 か月間に 5 つのプロジェクトを終了することを目指すなど、具体的に目標を定めて行動することが出来た。	所属していたスピーキングクラブでは、メンター制度があり、発表に対するフィードバックが大変丁寧で、前回のメンターや聴衆の評価を元に次回の発表に臨むことが基本となっていた。さらに、最初にどのぐらいのペースで、発表を重ねて行きたいか、参加を通して自分がどうなりたいかを明確にすることが重要視されていた。
	就職活動の際には自ら行動を起こし、必要な情報を収集し、サポートをしてもらえるよう行動した。	自分が今どういう状況にあり、どうしたいのかを言葉で表現するようにしていた。
	ディベートでチームが全然勝てなかった時、チームミーティングでつたない英語を使って、チームに呼びかけた。その結果連勝することができ、最終戦まで昇格争いするチームになれた。	ここで何も言わなかったら後悔すると思ったのと、自分の成長するチャンスだと思った。

■提案力（創意工夫する力）

	成果	要因
①日々の業務の中から問題を発見し、新しい解決方法を提案することができる	仕事を効率よくやる方法を店長やマネージャーに提案した。そしてアルバイト先でバイトリーダーになった。	常に仕事をするときは効率の良い方法を考えながら仕事をした。
	指示されたことをやるだけの姿勢から、日常的に疑問や意見を見つける癖がついた。	オフィスマネージャーがあまり質問しない自分に対して疑問と疑念を抱き、それについて聞いてきた。そのことで、人に自分の理解度を示すために疑問や意見を言うことが有効であることを実感した。
	旅行会社のツアーのカレンダーやポスターを制作するにあたって、レイアウトの提案や、配達する語学学校の配分などをした。	自由にアイデアが出せる環境で、自分の意志をしっかり持ち、決断力が必要な場面が多かった。
②業務の中での課題を、周囲を巻き込みながら解決することができる	情報共有の意味を込めて、なるべく自分が今何をしているか、どのようなことを行おうとしているかを常に共有し、改善に勤めた。	全員が自分のこととして考えるようにしたり、なるべく多くの意見を同僚から聞くことでよりよく改善できると考えていた。
	周りの協力を得ながら、業務を遂行、課題を解決していくことができた。	一人では不可能な仕事であったため、周りを巻き込む必要があった。
③業務や仕事に関する建設的な提案をすることができる	パブリックスピーキングクラブでクラブ紹介のイベントを行った際に、イベントの満足度向上のために参加者に対してアンケートを取る提案を行い、実際に作成・集計・報告を担当した。また、クラブの運営委員の間で月に一度開かれる定例会議においても、参加して間もない自分の立場をわきまえながら、積極的に意見を出した。	クラブのメンバーとして個人的な発表を繰り返すだけでは、このような経験は出来なかった。ある機会にクラブ運営委員の会計として推薦してもらい委員会に入ったことで、組織のために提案をすることが出来た。
	仕事の要領が分かるようになった後、時間のあるときに通常業務以外で手間のかかる仕事や、以前より気	以前は言われた仕事だけをしていたが、それだけでは緊急時に対応できないことが分かったので、同僚と

	になっていた点を改善したいとマネージャーや同僚に提案をすることができた。	一緒に解決策を考え行動した。
	店舗課題の分析、新人教育を自ら実施、店舗に貢献することができた。	新人向けの料理内容や開店・閉店作業の勉強会、テスト実施の提案・実行。仕事内外で上司・他の従業員とのコミュニケーションを意識した結果、相談役として信頼を得た。

■コミュニケーション力

	成果	要因
①自分の意見を的確に伝えることができる	授業中わからないことがあれば進んで質問をしているうちに自分が一番質問する人になっていた。日本にいたころはあまり質問しなかった。	海外では日本みたいに空気を読むという文化ではないので、自ら発言しなければ相手は自分をわかってくれない。そのような環境にいた。
	自分の意見について幾つかの具体例と状況説明を加え、相手にその状況をイメージしやすいように補足を加えることができるようになった。また、説明するだけでなく質問を多くすることで相手が聞くだけにならないようにした。	シンプルな表現だけのやり取りでは相手と自分の語句に対してのイメージが異なり、言っていることがうまく伝わらず、何度も誤解が発生し、その度に修正と補足説明をした。
	業務中に上司から意見を求められることがあり、対応できるようになった。	「あなた次第」と言われることが多かった。
②相手の意見を丁寧に聞いて意思の疎通ができる	聞くことに力を入れた。100パーセントの自信がないときは聞き返し確認することで意思疎通を図った。	リスニングが苦手なのでとくに意識して聞くようにした。
	相手の言っていることと自分の解釈が合っているか確認をこまめに取り、常にメモを手元においてキーワード、日時、場所など記録した。それを元に後から聞き逃しがないか相手に確認を取るようになった。	会話が流暢に進む中、すでに知っていて当然となっている要素がいくつも含まれていたり、抜け落ちてしまっている要素などに気付かず後から驚くことやミスを誘発したり、文句を言われる経験があった。

	円滑にコミュニケーションをするうえで聞くことは、伝えることと同じくらい重要であることを認識した。	意見を聞くことで自分の意見を改めて再確認した。
③場面に応じて適切に伝達手段（口頭・Eメール・SNS・電話）を活用することができる	自分の予定を口頭で伝えた上で、メールや SNS のメッセージでタイムスケジュールを伝えるなど、自分がどこにいるか、何をしているかを必要な人が確認できるように配慮した。そして相手に確認のためのメッセージを頼んだ。	何度か、口頭で伝えたことを相手が忘れて後で抗議された。また、インターネットのない状態で連絡が取れずに合流できなかったこともあり、自分の動きと相手の動きが全く見えずに時間を浪費した。
	サッカーで練習のない日は SNS などのグループチャットをして連絡をとった。そして大切なことは口頭で話し、緊急な時は電話で連絡を取っていた。	伝達手段によって相手の受け取る気持ちが違ってくるので意識的に気を使った。
	世界中の人とコミュニケーション手段として適切な伝達をすることが出来た。	出会いを忘れないためにも場面に応じて適切な方法をとった。

■実行力（チャレンジする力）

	成果	要因
①ものごとに粘り強く取り組むことができる	今まで楽な方に生きてきたが、自分に厳しくすることで自分が意外と粘り強いことを知った。	仕事先、住まい、WWOOF 先、困難でも理想とする場所を見つけるまで決して諦めなかった。
	1 年間キンバリーに住み続けられた。小さい町のコミュニティの一員になる難しさから孤独を感じ落ち込むことも多々あったが諦めなかった。	途中で何も得ずに移動したら諦めて逃げることに感じたので、結果の有無は問わず最後までやり遂げることで満足して次のステップに進めると感じた。

	長期的な計画を立てて、実行できるようになった。渡航前に、どんな自分に成長していみたいか目標を持っていたので、それに向けて毎日振り返りを行い、目標に向けて最後まで努力し続けることができた。 例えば、英語の勉強のために、週1回以上地元の人が集まるコミュニティに参加すると決めた。ネイティブスピーカー同士の会話についていけない苦しい時期が続いたが、仲間に支えられ、諦めずに続けた。しばらく後で、彼らの会話が理解できたとき、達成感を得た。	ワーキング・ホリデーは1年という限られた時間しかないので、その時間を有効に使わなければ、と思い頑張った。
② 目的の達成に向かって、失敗を恐れずにチャレンジすることができる	失敗してもいいからとりあえずやってみよう、という考え方が当たり前になった。	思い切って仕事を辞め、ワーホリに行ったことがきっかけである。時間も限られている為、時間もお金も無駄にしたくないという気持ちが強かった。
	言語を習得するために、伝わらない理解できない体験を多くしながらも逃げずに会話を試み、耳と口が慣れるまで地道に挑戦し続けた。	挑戦、失敗、訓練しなければ成功、満足、慣れることはありえないと感じていた。
	とにかくいろいろな経験をすべく、職場に Apply し続けたこと。英語力を向上させるために、日本人のいないレストランや、以前から興味があったホテル、幼稚園のボランティア等、たくさんの場所に足を運んだ。完璧に英語を話せなかったのが、自信は持てなかったが、失敗しても次があると思い挑戦し続けた。おかげで、様々な経験をすることができた。	海外でしかできないことを経験しない手はないと思えた。日本にいてもできることよりも、とにかく今、ここでしかできないことをやる！をモットーにいろいろなことに取り組んだ。

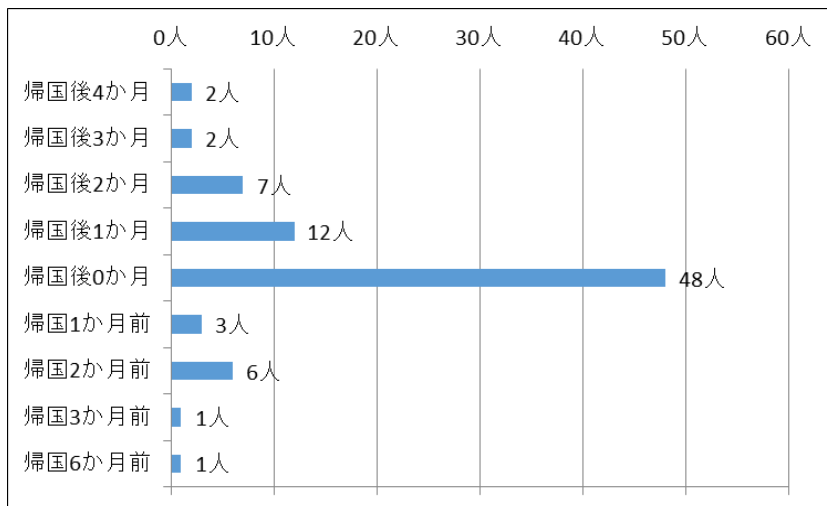
③自ら目標を設定して、計画的にやり遂げることができる	一番の目標はスキー場で働くこと。それに向かって事前に経験者から情報を集めるところから念入りに準備し、仕事を心得てやり遂げ worker of the month に選ばれた。	遂行には目標、計画が必須。英語が第一言語でないことをハンデに感じていたので、失敗しないようよく確認しながら積極的な態度で働いた。
	新聞を毎日必ず読むという目標をやり遂げた。また、空き時間にはロッククライミングにチャレンジし続けた。そして、期間を決めて、家探しや職探しを行い、実際に見つけることができた。	昔から計画的にやり遂げるということが苦手であったが、渡航前に自分に日課を課した。そのうえ、新しい趣味を見つけ継続するために効率的に時間を使うようになった。
	日ごろから何かを始めるときに目標設定と計画を立てて行動するようになった。目標を意識しながら生活することで、自己成長につながった。	また計画を柔軟に見直すようにした。実施後に振り返りを行い、強化された点と課題点について自己分析した。
	帰国直前に受けた TOEIC では、前回から 100 点 up の 750 点を目標にして勉強していたが、結果的に 150 点 up して 800 点を取ることが出来た。	通勤時に新聞を読んだり、知らない表現・語句に出会ったら必ず調べるといった、日々小さな努力を積み重ねた。

2. 就職活動の統計データ

(1) 就活開始時期

平均すると帰国 0.2 ヶ月後となり、半数以上が帰国月から活動を開始している。

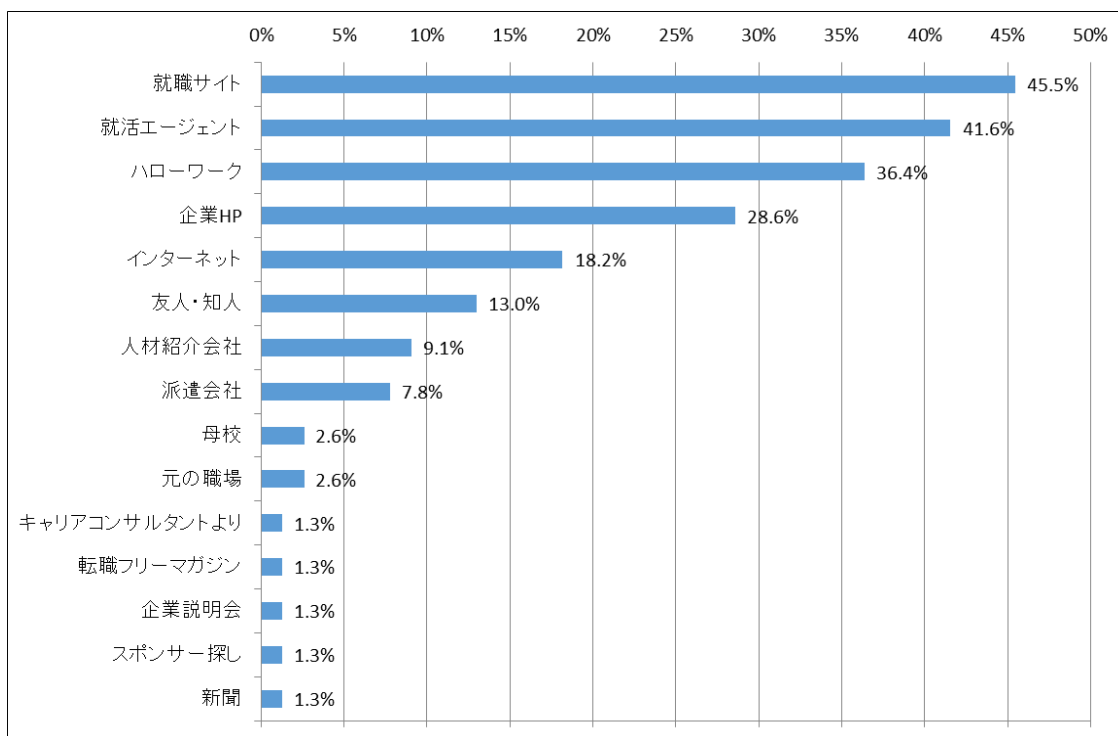
図表 3-2 就活開始時期の内訳 (N=82)



(2) エントリー数、面接数、求職ルート

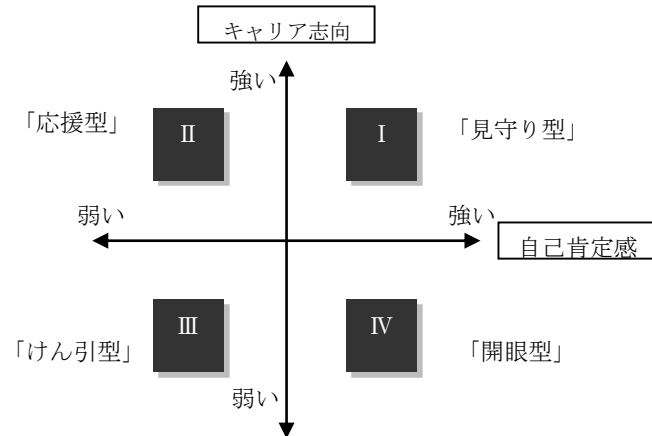
エントリー数は、平均 6 社。面接数は平均 3 社であった。また、求職ルートは以下の通り、就職サイトや就活エージェント、ハローワークがトップ3である。

図表 3-3 求職ルートの内訳 (複数回答) (N=82)



3. タイプ別渡航者の特徴と各タイプへのキャリア・コンサルタントの関与

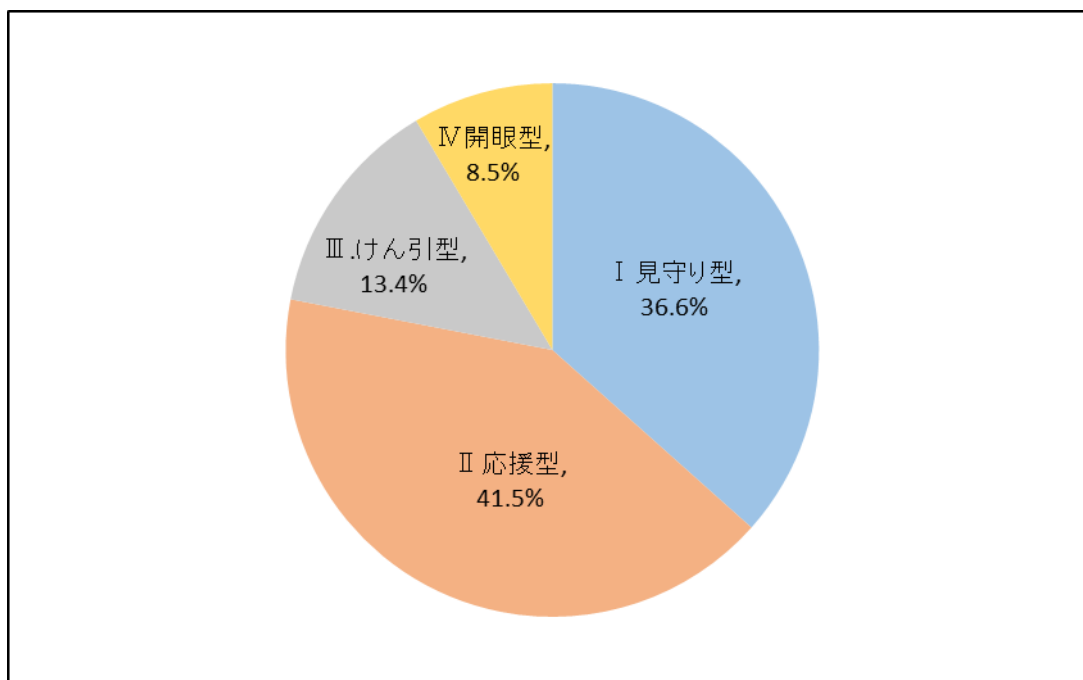
2013年度の事例分析にて渡航者のタイプとキャリア・コンサルタント（CC）の関与スタンスについて以下のように分類をした。



渡航者 タイプ	CC の関与スタンス	渡航者の行動
I	「見守り型」 本人の意思を尊重し、困った時や迷った時に手を差し伸べる。	能力開発がぶれないよう上手く CC を活用し、自信を持って主体的に様々なチャレンジをし続ける。現地の人との交流や就業体験をする中で気づきがあれば CC へ報告することで記録を残し、帰国後の振り返りも自ら棚卸し自分の言葉で表現している。
II	「応援型」 本人のキャリア志向を尊重し、スキルやマインドの承認を徹底する。	行動した結果に対する別な見方・考え方を CC に尋ねることで、自身への冷静な評価を得、その後の行動に変化がみられるケースが多かった。CC からの承認を支えに小さな成功を積み重ねることで自己肯定感を高めていくことが肝要と思われる。
III	「けん引型」 全面的に支援し先導する。	目標を達成するための計画と一緒に綿密に練り、渡航中はその経過を CC と確認しあうことが大事である。また CC からのアドバイスを素直に実践しその結果を承認してもらうことで自己肯定感を高め、「答えは自分自身の中にある」ということに気づくと、キャリア志向への意識も芽生えてくると思われる。
IV	「開眼型」 キャリア志向へ開眼するよう仕事への意識醸成を図る。	ボランティアなどでも構わないので、まずは興味のあることに貪欲に取り組む中で、やりがいや充実感を感じ始めるとキャリアへの意識も芽生えてくる。海外流のワークライフバランスや仕事を楽しむスタイルも、キャリアを考える上での選択肢として捉えることも大事である。

上記に基づき、今回の分析対象者を分類したところ次のような割合となった。

図表 3-4 渡航者タイプの内訳 (N=82)



以下では、渡航者のタイプ別にみられる特徴やコンサルタントの関与に関する具体的な事例を元にコンサルティングに係る考察等を紹介する。

【I. 見守り型】

渡航者の特徴 (良かった点・課題点)	コンサルタントの関与	考察・補足
良かった点) 自ら目標設定し、主体的に動き、努力を重ねる。 計画性・柔軟性も高く、状況判断力・問題解決力も保有している。 コンサルタントとの関係も常に良好であり、互いに感謝の気持ちを持ちながら、共育する事ができる。	目標が明確だったので本人の自主性を尊重した。帰国後の就職準備の一環として、渡航中一緒に旅行会社の情報収集をした。本人の意志・計画を尊重し、目標達成の為に精神的な支えの役割を果たした。	就職活動に於いては、未経験職種へのキャリアチェンジであることから、研修が充実している会社を選択した。努力家であり、責務を全うする勤勉さから、短期間の就職活動で成功を得た。

良かった点) 自分の課題に対して、対策を立て、実行することができる。 課題点) 自分の強みの自覚がやや薄い。	帰国後の就職の目標と方向性が明確だったため、行動しようとするには、積極的に同意し、賛成することで、強みへの自信につなげた。	現地のあこがれの会社へ直接談判して見学をお願いをするなど、自力で動ける点などを強みとして気づかせることがポイントだった。
良かった点) コーチング内容を上手く取り入れ、自分で自ら目標設定し、主体的に動ける。 課題点) やると決めたら行動に移せるが、ときおり慎重過ぎる面もあり決断までに時間を要してしまうことがある。	目標がしっかり決まっていたので、そのためのやるべきことを整理し、あとは本人の自主性に任せた。また、就活で自信を失くしかけた際には励ました。	企業の応募条件に忠実に従おうという面があったため、若干条件に満たなくても積極的にアプローチするよう促した。几帳面すぎる場合には柔軟性を取り入れることも肝要である。
良かった点) 渡航目標、就職目標が明確で情緒や生活のリズムが非常に安定。努力を継続できる。 課題点) 社交性や柔軟性に欠ける傾向があり、自分の殻を守るタイプ。冒険心やチャレンジ精神はやや不足。	渡航中の勉強や生活について不安要素はほとんど無く、きちんと自己管理が出来ていたのでペースメーカーとして見守るスタンス。キャリア目標も明確で就活も順調に展開していたので、書類のチェックや面接対策など具体的なサポートで早期の就職に結びつけた。	前職の経験と英語を活かせる仕事という方向性が渡航中から決まっていたので帰国1ヶ月前くらいから転職サイトに登録。スカウトのあったエージェントと帰国後の面談を約束するなど、極めてスムーズな展開だった。目標が明確だったので応募件数も絞られていたが無事希望通りの外資系企業に就職。
良かった点) 努力家で好奇心旺盛。渡航目的がはっきりしており、やるべきことも認識。何とかするとは思わず、常に次の一手（オルタネティブ）を考えている。 課題点) 何事も自分で解決しようとして、せっかく持っているリ	帰国後は前職と同じ経理職に戻りたいという希望であったため、決算書を英語で勉強しても面白いのではないかと提案。自己管理能力も高く、目標は絶対に達成するという意思も強く、勉強も含め特に困っていることもないとのことで、本人の自主性に任せた。帰国前に、滞在の延	前職と同じ経理職に絞り、また経験もスキルも充分だったので、短期に採用が決まった。ケンブリッジ英検の資格（FCE）も取得し、外資系も応募したが、書類選考も通過しないとのことだった。謙虚で自己評価が低いので、主に、前職で危機を乗り切ったことや身に付けたスキルな

ソースに頼らない面がある。何事にも慎重で、情報を収集しすぎて、反対に決断が遅くなる面もある。長期スパンで物事を考えることが不得意。	長を悩んだが、メリット・デメリットを挙げることで、整理した。	どの棚卸を行った。掘り起こした結果、すばらしい成果があり、多くの強みがあると気づかれた。
良かった点) 渡航経験を活かした仕事へのこだわりを持っていた。 課題点) 率先して動くタイプではなく、自分が納得しなければ行動できないタイプ。	書類作成のサポート、渡航経験により習得したスキルの振り返りを促した。また、仕事に求められるスキルの説明や企業が求める人材についてもアドバイスし、仕事選びのサポートを実施。	やりたいことが先行している印象をうけた。自分の強みを考え、求められるスキルと照らし合わせて仕事を選ぶ必要性を促した。

【Ⅱ. 応援型】

渡航者の特徴 (よかった点・課題点)	コンサルタントの関与	考察・補足
良かった点) 積極的にコーチングを受け、情報共有に徹した。 素直で協力的。 課題点) 自己理解・職業理解が不十分で、目標設定が出来ずにいた。 渡航期間を人生の休養・充電期間と捉えていた。	目標が不明瞭であり、積極的に学び・行動する意思は希薄。コンサルタントとしては、スカイプでのコーチングを頻繁に実施し、自己理解・職業理解を促した。スモールステップを大切に、毎回1ヶ月の目標の見える化を図り、有意義な渡航となるよう支援。	当初、積極的な就職活動がなされなかった。また、将来の方向性が不明瞭(適職・希望職種を模索中)だったので、頻繁に相談。渡航先でヨガインストラクターへの憧れが生まれ、帰国後はヨガ教室受付の仕事に就いた。本人の意志を尊重し、様々な職業を経験し、その中で自己理解・職業理解を深めていく事となった。
良かった点) 再就職したい気持ちを常に持っていた。 課題点) 日本語で自分を表現する語彙・文章力が不足。マイナス思考に陥る傾向がある。	様々な働き方があること、また日本の求人の多用性など、常に明るい気持ちになれるような話題に努めた。応募書類は自分の考えを上手に表現できるように指導。明るく考えられずにいるときには、自然に目が向く話をした。	一個人として就職することと、ひとりの女性としてのライフプランの間にいろいろと悩ましい時期だった様子。どれも否定せず、誰でもなく自分の幸せを考えていくようにといつも励ました。

良かった点) 自分の適性を良く知っている。人脈構築に優れている。 課題点) 日本語で自分を表現する語彙・文章力が不足している。再就職に対するイメージが曖昧なままでコーチングを開始。	シェアハウスやバイトの決め方を見ていると、接する相手から得る情報・自分との相性を的確に報告できていた。このスキルを就職に結びつけるべくアドバイス。求人内容についても、何が良くて何が不足しているかを報告するよう具体的に指示。文章作成はほとんどできないので、サンプル事例集を多く渡して練習を積んだ。	当初、外国を大いに楽しみたい気持ちが強く、就職への意識は希薄だった。また、日本では仕事で認められたことがなかった様子。しかし、自分の適性等を考えていく中で、仕事環境・勤務体系のイメージが強化され、知人紹介の求人から自分に合った勤務場所を探していけるようになった。渡航したからこそ自己理解が進んだ就職だったと言える。
良かった点) 強い就業意識を持っており、実行力、行動力は、抜群だった。 課題点) 語学力に自信を無くしていた。	強い就業意識を持ち、具体的に英語を使う企業に絞り込んでいた。アドバイスを素直に聞き入れ、即、行動に移した。 英語力を上回る抜群のコミュニケーション力、異文化適応力、実行力、行動力で、就活は、十分に戦えることを強調。	英語を使える仕事に絞り込んでいたのが良かった。事務部門の応募であったが、結果は、営業も兼ねることになった。 企業が本人の能力を見抜き、営業の仕事にも、期待したと思われる。
良かった点) コーチングの都度に、自身の課題を見つめ直すことができ、礼儀正しく律儀。負けず嫌いで、粘り強く物事に取り組む。 課題点) その時々自分の心と身体の声に左右される。よって、モチベーション管理が難しく、目標に即した行動が伴わない場合が多い。 内省的なので、決断に時間を	「想いをカタチに」を合言葉に設定。目標とのギャップを埋めるために必要な行動の見直しを図るため、時には介入した。帰国後は、思いや振り返りの言語化に重点を置いた。また、「子どもたちをサポートしたい」という軸はゆるぎなかったため、そこから派生する職種などを一緒に考えた。マインドを大切にするタイプなので言葉を慎重に選び、常に応援している	好きだから、やりたいことだからという理由で、オーガニックカフェや子ども支援のNGO 団体に応募。正規雇用を希望するも、非正規で短期間の職務が多く、職務能力形成機会に恵まれていなかった。ステップアップのためには、専門的スキルを身に付け資格取得が重要であるとの気づきを得、進むべき方向性も主体的に導き出し、看護助手として採用が決まった。将来

要する。課題発見力や想いは強いものがあるが、それを形や文章にすることが苦手。	ことを示した。	的に、保育士あるいは看護師の資格を取りたいとのことだった。
良かった点) 目標設定し、リスクマネジメントを行うタイプ。 課題点) 他者の意見を参考にする姿勢もあるが、自らの考えに固執する傾向あり。 目標達成に関する振り返りが不足していることから自己効力感が低い。	中小企業診断士を受験し、資格取得と資格を活かせる職業設定など、主体的に行動している。初めての転職だったので、応募書類や転職に関する情報収集など活用できるリソースのアドバイスをを行った。	国内外での就業経験を言語化できず、さらにスキルに関しても、アピールできることがないと否定的であった。転職に際し「自信がない」「できることが少ない」など棚卸が十分ではなかった。転職で「失敗したくない」という気持ちが強かったので、自信をつけることに時間を割いた。

【Ⅲ. けん引型】

渡航者の特徴 (よかった点・課題点)	コンサルタントの関与	考察・補足
良かった点) 助言を素直に受け止め、行動に移すことができる。 課題点) メンタルが弱いことにコンプレックスを感じており、自己肯定感が低い。	頻繁にメッセージで不安を訴えてきた場合は、相談にのり、イラショナルビリーフ(非合理的な思い込み)の修正をした。	ハローワークの知り合いにもつなげ、求人紹介の量を増やしたが、最終就業先は、自力で探した求人に応募し内定。
良かった点) 自発的に行動でき、目標に向かって継続する力がある。 課題点) メンタル面が若干弱い。	行動していることについて賞賛した。また、同じような悩みを乗り越えた方のエピソードを踏まえて助言した。	Skype 英会話を渡航前から帰国後まで継続していた努力家でもあるので、その長所を強みとして意識させた。
良かった点) 明るくポジティブ、ホスピタリティあふれる笑顔が印象的で、アドバイスについては素直に耳を傾けた。 課題点) 正社員としての経験がない	わからないことに対して質問を積極的に行ってきたため履歴書の添削も含め具体的にサポートした。	本人でアプローチを行い、就職先を開拓したことは非常に評価できる。そのことで募集時期を把握し、内定にいたる。文章の書き方などわからない点が多くある中で本人も努力し、その努力がすべて

ためメール等のビジネスマナーを理解していない。		報われる形での内定だった。
良かった点) 明るく誠実、まじめな人柄。また、人のために役立ちたいという思いがとても強く、自分のことは顧みず一生懸命対応するタイプ。 課題点) 人のためならがんばれるが自分のことについては自己肯定感が低い。 周囲の期待に答えることは得意だが、失敗を恐れる傾向があり、自分の可能性や行動を狭めている。やや拡散思考。	目標としていたケンブリッジ検定に受からなかったこと、現地でのアルバイトやWWOOF 体験が短いことも重なり、海外で得られたものがあまりなかったのではないかと心配。しかし、海外での話をしたり、海外体験評価シートを整理したことで、やってきたことを前向きにとらえ、成長したことを実感。英語を使った貿易事務にこだわっていたが、前職の棚卸をしていくうちに事務でルーティーンワークをするより、ある程度提案ができ、自由裁量で仕事ができる、人と関わっていく仕事の方が自分に向いていることに気づき、職業を選ぶ視野が広がった。	若干のんびりしているところもあるので興味があるところはどんどん応募するよう促した。 控えめな性格ゆえ面接で自信がないような印象を受ける心配があったので、コンサルタントと話しているような感じで面接に臨むようアドバイス。 英語を使う仕事をみつけるのは難しいのではないかと思われたがあきらめなかったので海外営業というポジションの仕事を獲得した。
良かった点) 真面目で素直。そして目標に向かって地道に努力するタイプ。 課題点) キャリア目標が不明確。また大人しい控え目な性格でやや自己効力感が低い。	真面目で努力家なので大きな心配は無かったが自己効力感が低かったので、褒めるポイントを見つけて自信を持ってもらう事を意識。就活では基礎力が十分にあるにもかかわらず、活動量が少なかったことで面接に慣れ、小さな成功体験を増やすことを助言。そのことで不安を払拭し積極的な姿勢になり、最終的に企業の評価にも繋がった。	性格的に受身のところがあるので最初の 2 ヶ月くらいはペースが遅く本人も焦りを感じていた。面接でも遠慮がちでうまくアピールできないところが見受けられたので、渡航成果に自信を持つようコーチング。応募数を多くして何回か失敗してもめげずに違う自分を演じるくらいの気持ちを持つようアドバイス。面接回数が増えて少し慣れてくると NG を気

		にせずポジティブに臨めるようになった。元々前職経験が非常に良かったので面接で好印象を出せ、評価に結びついた。
--	--	--

【IV. 開眼型】

渡航者の特徴 (よかった点・課題点)	コンサルタントの関与	考察・補足
良かった点) バイタリティがあるところ。 課題点) 自分の適性を見極めきれないところ。	これまでの経歴を傾聴し、重視していると思われる要素を客観的に伝え、自己理解を深めた。	目的がないまま2回目の渡航を考えていたため、メリット・デメリットを考えてみることを助言。
良かった点) バイタリティがあり 交友関係を重んじるところ。 課題点) 一般的な常識に欠け、自分本位である。	相手の立場を考えられるようにこちらの接し方も丁寧なアプローチに変えた。	アルバイトの就業経験しかなかったが、過去に引きずられるのではなく、前を向いていくことを助言。
良かった点) コンサルタントに対する信頼が厚く、加えて帰国後の再就職に対する行動が迅速であった。時間を空けないことをコンサルタントと約束した。 課題点) 日本語で自分を表現する語彙・文章力が不足していた。日常語学と、働く語学の違いを知るのに時間がかかった。	長期のキャリアプランを考える間もなく、生活のための勤務経験が目立っていた。しかし、どんなときにもチャンスは必ずあると励まし、できることは何でもやってみようとした。帰国後コーチング2回目には、見た目の印象をレベルアップして面談できたことで、自分の変化を認識。応募書類はかなり苦戦していたが、将来の自分の生き方・イメージを明らかにする事例・文章を提示して指導。	家庭の状況など、自分のことを語るときはよく涙ぐんでいたが、帰国してからは笑顔の数がどんどん増えて行った。本来の自立とは何かを考えるきっかけにもなった。自分の足元を見据えての再就職となった。

良かった点) 真面目で素直。また、仕事の能力にある程度自信を持っている。 課題点) 渡航動機が不明確でやや柔軟性に欠け、物事を悲観的に捉えたり諦めがちになる時がある。	渡航成果が実感できないことで悲観的になることが多かったので、渡航経験そのものや小さな成果を見つけて評価することで自信を持ってもらうよう強く意識した。就活準備では渡航成果を過小評価しないように注意し、上手くいかなくても後ろ向きにならないように元気を出して粘り強く取り組めるようコーチングを継続した。	前職の経験から仕事に対する基礎的能力については少し自信があったが専門性が無いことで、就活スタート時点はやや動きが鈍い感じがあった。応募書類などの作成は素早く、いくつか動き出してからはエンジンがかかってきたので、仕事の能力の高さに自信を持ってもらい、面接では意欲をアピールする事を強調してアドバイス。
良かった点) 素直で行動的。 課題点) 軽率な行動に危うさを感じる事がある。	やりたい事がまったく見つからなかったで、心地良い場所や行動などを探っている、大学での勤務が良いのではとアドバイスし、最終的には学生への支援に行きついた。	本人は無資格でキャリア支援の仕事へのチャレンジだったが、募集条件で求めないところもあるので、本人と一緒に目を皿のようにして毎日就職情報を探した。
良かった点) やりたいと思える仕事を自分で選べるように力をつけたいと言っていたが、それを達成できる自信を持っていた。 課題点) 人と関わり、英語が使える仕事というぼんやりとした視点だった。	初期コーチングの際にやりたいと思える仕事を選べるような力を付けて帰って来たいという目標を立てた。それを達成できるように英語力、ストレス対応力、論理的思考力を意識し、毎回の月次コーチングで振り返りと承認をくり返し、行動計画を明確にした。	人と関わり英語が使える仕事という方向で地元を探した。いくつかトライしたが採用まで至らなかった。どうするか方向を決めかねている時にした短期アルバイトで英語を使うことがありとてもやりがいを感じた。そして、やはり英語を使った仕事がしたいと意欲が増し、働く場所などの視野を広げアメリカのクルーズ会社に決定した。

4. 海外体験の棚卸し事例

海外での体験をいかに応募書類や面接へ反映させたかについて、語学、私生活、就労という観点で以下に事例を紹介する。

海外での体験		応募書類や面接への反映
学校	語学学校が急にストライキでクローズになり交渉しても埒が明かないので、友達を集め別の語学学校の無料体験コースを使わせてもらえるように交渉し、了承を取り付けた。最終的には途中でストライキが終了して体験コースを使うことはなかった。	突発的な問題に対し泣き寝入りせずに交渉し別の解決策を考え、周囲の人に働きかけまとめながら問題解決したエピソードであり、企業が期待する「主体性」と「問題解決力」の好例として、特に面接での具体的なアピールに活用。
	英語はあまり出来なかったが、持ち前の人懐っこさと行動力で学校仲間の宴会担当のような役割を果たし、大勢の外国人の友達を作った。	物怖じしない積極的なコミュニケーションで仲間をまとめていくリーダーシップの例として自己アピールで活用。
	ESL コースから途中でケンブリッジ英検取得のコースに変更し、自分の英語力を試すため、また可視化のために資格取得を目指す。	英語力のアピールだけでなく、目標設定に対して実直に努力できる力や主体性をアピール。
	渡航先で英語の多様性に出会った。スペイン語圏の訛りが強い英語を話す学生がクラスにいたが、何を言っているのかまったく聞き取れなかった。せっかく渡航したのだから、世界で話されている生の英語を理解したいという強い思いで、相手に話しかけては何度も聞き返した。粘り強く努力した結果、最後にはほとんど聞き取れるようになり、その後かけがえのない友人となった。	好奇心旺盛で異文化対応能力にも長ける。困難な状況でも粘り強く取り組み、最後までやり遂げることができる力をアピール。
私生活	知り合いのいないパーティに参加したり、ネットで調べたイベントに毎週のように参加し、初対面の人にも積極的に話しかけるように努めた。	異文化対応力の向上。いろいろな人たちの考えや、その考えの背景となることを知ることができ、視野が広がり、違う角度からも物事を見ることができるようになった。
	文化、習慣、思考の異なる人たちの中	コミュニケーション能力や、他者視点で考

	で、自己主張の仕方やコミュニケーションのとり方、時間に関する意識の違いなどで戸惑いを感じたが、相手の視点で感じることの重要性、相手の人を受容することの大切さに気付くことで周囲と良好な関係を築くことができた。	え・行動できるコミュニケーション能力をアピール。
	ビザ発給のトラブル、紛失物、道に迷った、仕事が見つからないなどの滞在中のトラブル対応。	具体的にエピソードを交えてトラブルにも冷静に対応できる精神力、判断力、コミュニケーション力をアピール。 また、思いもかけない状況にも諦めずに、自分の力でやり抜く精神力、状況を踏まえ行動できる人物であることや、たとえ自分自身にとって困難な状況にあっても、臨機応変に対応し、その経験から成長に繋げる柔軟性、粘り強さをアピール。
就労	インターンシップ先で補助的な仕事しか与えられなかったが、このままでは自分の成長につながらないと判断し、与えられた業務以上の成果を出した上で、自分がやりたい仕事をことあるごとに直談判した。結果、徐々に補助的な仕事以外の業務も任されるようになった。	主体性、向上心、チャレンジ精神などを業務の実例を交えてアピールできる。 指示や与えられたことしかできない人物ではなく、自分がいる立ち位置で、最善のパフォーマンスを出そうと物事を考え、行動・実行できることや、自分が成長できる環境を自ら作り出し、積極的に物事にチャレンジできるということをアピール。
	インターンに参加したがあまり仕事がなかったため、空いた時間に勤務地の周辺地域の調査を行い、街の地図やお店紹介図を作成。また街の由来や歴史を調べ社長にプレゼンしたところ、地図を有価で買い取ってくれた。またインターンで実際の仕事現場を見たことで、仕事には様々な付随業務があり細かいサポートがあることで成り立っていることを知ることができた。	どのような環境であっても、今自分に出来ることは何か、得られることは何かを考え、積極的に行動に移すことができる。また幅広い視野を持ち、知識を増やす努力を惜しまないことをアピール。
	アルバイト先では、固定客を増やすために、積極的に名前や好みの料理を覚	顧客との接触頻度をあげることにより、固定客を増やし、売上に貢献した。

え、自分から話題を投げかけた。	また相手が何を求めているのかをキャッチする力が身についたことや人との距離を自分から縮めることが得意であることもアピールできる。
カフェの仕事を探したがなかなか反応がなかった。そのとき、募集が出ていなくても気になるカフェを片っ端から自分のレジュメを配って歩き、ついに仕事を見つけた。	諦めずに状況を突破するアグレッシブな行動力のエピソードとして活用。
オーストラリアのファーム体験。1日の収穫量の目標を数値化し、時間・ペース配分を計算しながら作業を行った。その結果、収穫量1位の成績を収めた。早朝からの長時間の非常にタフな作業を最後までやり抜いた。	計画的にやり遂げることができる。ストレス対応力があり、物事に粘り強く取り組むことができる。
カフェでは、周りの状況を見ず個人プレーの従業員が多かったが、効率よく作業しスピード感を持って仕事をするよう促しフォロー体制を築いた。チームワークも生まれ、結果売上に貢献することもできた。	自分の仕事だけでなく、常に周りを目配り気配りし、チームワークにて成果に繋げる力があることをアピール。
自分のスキルに関係するボランティアをしたく、断られても熱意をもってコンタクトを続けた結果、インタビューをしてもらい受け入れてもらえた。	自分のスキルを実践的な環境、英語環境で試したことをアピール。またより厳しい環境を自ら選んで、自分の能力向上に努めたことやチャレンジ精神、実行力があることを強調。
語学学校以外に5時間を超える自己学習を行い、また7つのボランティアに参加し周囲と積極的にコミュニケーションを図り活動を行った。	目標達成意欲、向上心、コミュニケーション能力などをアピール。

第4章 就職活動のあるべき姿

この章では、就職活動のあるべき姿について、渡航前、滞在中、帰国後のフェーズごとに考察を記載する。

1. 渡航前

カテゴリ	すべきこと
語学力	TOEIC 等の資格を取得し「渡航前」と「渡航後」の成長の度合いがわかるようにしておく。
	出発までに時間のある場合はできるだけ英語の勉強をしておく。たとえば、日常会話の参考書の学習や英語放送に耳を鳴らしておくなどは有効である。
自己分析	人間関係の築き方、困難や挫折の乗り越え方や過去を振り返り整理しておく。
	英語力や社会人基礎力を含め、自分に足りない力・伸ばしたい力を整理しておく。
	これまでの職歴や自身の価値観などを棚卸ししておく。
渡航動機	前職を辞めた理由を言語化し、なぜ海外（その国、その街）に行くことにしたのかを考える。
	渡航先で体験できることが今後の就職活動にどう生かせるかをより具体的にイメージする。
	英語を使って具体的にどのような仕事がしたいのかをイメージする。そのための情報収集（求人情報、知人からの情報、ネット情報など）をすることで、仕事像を具体化する。
	何の目的で渡航するのかを考え、それを達成するために何をどうするかを具体化する。
目標設定	「海外就業体験の有効性」、「海外で身に付く力」および「企業の求める要素」を認識し、海外でどんな力を身に付けたいかをしっかり計画する。
	海外でこれを得たいというスキルや経験値をリストアップする。
	目標設定シートの持ち帰りたい3つの成果を具体的に確認し、どのように持ち帰るかをイメージ出来るようにする。 強化する力の自己評価が上がっている状態というのはどのような状態なのかをはっきりさせ、その状態にするための行動目標を確認する。 帰国後の仕事のイメージを少しでも考え言葉にしておき、途中で振り返りやすくしておく。

2. 滞在中

カテゴリ	すべきこと
就業	コミュニティに入り、主体的に行動し、周囲に好影響を与えるようなエピソードを作るよう活動する。
	日本では経験できないような活動や勉強を探しできるだけチャレンジする。
	活動記録をつけ、成果物を残す。その時、気づいたことや新しい発見や感じたことなどもメモする。
	3ヶ月単位くらいの中期目標と1ヶ月単位の行動目標を考え、目標達成に向けて行動を軌道修正してゆく。
	毎月、コーチングの際に目標の達成と行動の振り返り、今後の目標と行動計画を確認し、何をするのかを明確にする。
	渡航者は、現地では部外者であるので、学校でもアルバイト先でも、与えられた課題に真摯に向き合い、一つ一つ積み上げていくことで、信頼・信用を得る。そのことによって、自己肯定感も高まり、帰国後の就職活動での自信につながっていく。
就職活動	帰国後の進路が未定の場合は、帰国までに何らかの絞込みや候補探しをする。仕事や働き方に興味を持って日々生活し人と接する。
	帰国が近づくタイミングで日本の求人情報を収集して、雇用市場の理解を深めるとともに、自分が興味を持つ仕事を知ることによって自己理解を深める。また、人材紹介会社や就活サイトに帰国前に登録することも帰国後直ぐの就活始動に繋がる。
能力強化	英語で何かを学んでみる。
	語学力を証明する資格を取得しておく。
	頑張ったことや成果が出たことを日記等に残しておく。そして、なぜその成果に結び付いたのかプロセスを振り返り、特に力を入れたことや工夫を洗い出す。
	帰国後のありたい姿に必要な能力やスキルを身につけられるように具体的に動く。その中で方向性が変わることもあるが、都度軌道修正すれば良い。その繰り返しで、確固たる強みとなり本当にアピールできる海外体験となる。
私生活	大変な決断をして渡航したので現地生活に浸ること。そのことで、現地生活を楽しみいろいろな経験をすることができる。
	前半は渡航先になじむこと。後半は少しずつ帰国後のイメージに沿って計画・行動。
	海外のコミュニティに入るためには、情報収集が必要。この努力プロセ

	スも強力なエピソードとなることを認識して活動。
	他者との会話を通じて、自分を知る（自己理解）。また、「したい」こと「できる」ことのギャップに気づき、柔軟な行動へ移行する過程で自身の意識変化を自覚する。また現地で活躍する日本人との交流からストレス緩和もモデリングしてみる。
	日本人とのネットワークも大切にする。現地生活や就活に向けての情報交換ができる。

3. 帰国後

カテゴリ	すべきこと
海外体験の振り返り	海外生活を振り返り、現地でしたこと、身についた力、得たこと、感じたこと、成長したことを振り返り、言語化する。
	強化する力の自己評価を確認し、達成イメージに到達したかの確認とその要因のエピソードも含め言葉にする。
	ジョブカード・職務経歴書等を早めに仕上げ、希望する求人が見つかったらすぐに応募できる準備を整える。応募時、企業や職種にあった職務経歴書、自己PRにブラッシュアップする。
	語学力を証明する資格を取得し、渡航前と比較してどのくらい上達したかを理解する。
自己分析	自己理解を深める。渡航中に特に力を入れたこと、工夫して成果に繋がったことから、自分にどのような力がつき、今後社会でどう活かしていきたいか整理する。
	仕事で求められるスキルへの理解と自分の強み・弱みの理解を深める。
キャリア設計	今後のキャリアプランを設計する。
	自分が考えるキャリアにあった働き方を考える。
就職活動	業界職種研究や、セミナー/説明会に積極的に参加し、仕事の理解を深める。
	希望職業に関する話を聞ける人と会う。
	友人、知人に帰国挨拶に伺い、求職中であることを伝え、紹介の可能性をつくる。
	日本語の語彙・文章に自信がない場合には、就活事例やサンプルを読み活用する。
	面接で聞かれる可能性がある渡航目的などは事前に言語化しておく。
	特に考えすぎて動きが鈍くなるタイプの人には、積極的に行動に移してみる。
	卒業後数年（通常3年）であれば、母校の大学で就職支援を受けられることもあるので、そこで既卒向け求人情報なども活用する。

第5章 就職成功までの軌跡とその後

Global ACE参加者で就職に成功し、職場で海外体験を生かしている体験者に関して、渡航前～帰国後、そして現在に至る過程とGlobal ACEのサポートをどう活用したかについて実情を知るためにインタビュー調査を実施した。

1. インタビュー概要

【調査対象】 Global ACE に参加し帰国した現在就業中の8名にインタビューを実施した。

【実施方法】 Global ACE 事務局が対面もしくは電話で取材した。

【実施時期】 2016年2月、3月

【調査項目】

- (1)渡航の動機
- (2)渡航前の就業状況
- (3)現地での主な活動
- (4)現地での困難とその克服
- (5)現地で意識していたこと
- (6)現地で一番印象に残っているエピソード
- (7)現地での居住環境
- (8)現地での仕事等の見つけ方
- (9)英語力向上のための取り組み
- (10)就職活動の方法
- (11)どのような準備をしたか
- (12)海外就労体験をどうアピールし、何が評価されたか
- (13)帰国から就職決定までに要した期間
- (14)就職活動は満足度とその要因
- (15)現在の業種、職種
- (16)海外就業体験が仕事にどのように活かされているか
- (17)会社が海外就業体験者に期待していること。
- (18)海外就業体験を今後どのように活かしていきたいか
- (19)キャリア・コンサルタントとのコーチングについて
- (20)GlobalACE のサポートについて
- (21)これから海外就業体験する若者へのメッセージ

【インタビュー回答者一覧】

氏名	年齢※	性別	出身地	参加プログラム	渡航先
Y・K氏	26歳	男	鹿児島	語学留学（COOP）、ボランティア、ワーキング・ホリデー	カナダ
R・H氏	27歳	男	愛知	語学留学、専門留学（インターンシップ込）	カナダ
T・Y氏	30歳	女	神奈川	語学留学、アルバイト・ファームステイ	オーストラリア
A・I氏	30歳	女	新潟	語学留学、ワーキング・ホリデー	オーストラリア
M・Y氏	29歳	女	埼玉	ワーキング・ホリデー、インターンシップ	カナダ
K・S氏	30歳	女	神奈川	大学院留学（学業のかたわらインターンシップを経験）	オーストラリア
T・T氏	26歳	女	京都	ワーキング・ホリデー	カナダ
M・N氏	29歳	女	愛知	ワーキング・ホリデー	イギリス

※年齢は帰国時点

2. インタビュー結果

Y・K 氏

男性、26 歳、カナダ（バンクーバー中心）

語学留学（COOP）、ボランティア、ワーキング・ホリデー

総滞在期間：1 年 6 か月

「英語で資格取得」との目標を確実に遂行。

留学を経て飲食アルバイトから海外赴任への大きな転身。

【考察ポイント】

- ・ 職歴重視の日本にあって、大卒後職歴なし（アルバイトのみ）からベトナム赴任職種を勝ち取った。
- ・ 1 年半の滞在中に、実践的なグローバルスキルを貪欲に学び、その優先順位は常にぶれていない。
- ・ 夢を追うポジティブな野心よりも、着実に望む目標を手に入れる冷静さと聡明さを持ち合わせる。

< 渡航前について >

(1) 渡航動機

大学在学時から英語科に通い、アメリカへの交換留学経験があった。

大学 4 年次に公務員試験を目指して勉強していたがそれをあきらめたとき、英語を使って資格をとろうと思った。卒業後、お金を貯めると決めた。

(2) 前職（業種、職種、正社員、契約など）

全国チェーンのレストランの厨房（アルバイト）。

< 滞在中について >

(3) おおまかな活動内容

語学学校に 3 か月、国際貿易資格 FITT を取得するための専門学校に 9 か月、TOEIC 専門学校に 2 か月、プロの通訳養成学校に 2 か月通学。

学業の合間にボランティア（清掃、日加商工会議所、バンクーバーパレード）を経験。

(4) 大変だったこととそれをどう乗り越えたか。

バンクーバーパレードのボランティアでは関わる人数が多かったためまとめるのが大変

だった。自分の役割を察知して自ら動こうと努めて乗り越えた。

(5) 意識していた(気をつけていた)こと。

バンクーバーパレードボランティアにおいて、組織で動くなか、自分の適性はリーダーではなく、リーダーを脇で支える役割なのだなと認識し、その役割を全うしようと思った。

(6) 一番印象に残っているエピソード。

バンクーバーパレードのボランティアを通じて感じたのは自分よりも年下の子たちがすごくたくさん来ているなということ。同ボランティアは、「バンクーバー音頭」を踊り地元の人たちに日本をアピールするというものだったので、若い人たちがみんな日本好きで、日本をもっと世界にわかってほしいと思っていることに、自分も頑張ろうと思った。

(7) 居住環境（ホームステイ、シェアハウス、寮、アパート等）

アパートを借りてシェア。

(8) 仕事、ボランティア、インターンシップの見つけ方。

地元のフリーペーパー。

(9) 英語力向上のための取り組み。

基本的には語学学校で学んだ。

<就職活動について>

(10) 就職活動の方法

ハローワーク。

(11) どのような準備をしたか

渡加する前から調べていた。自分のキーワードは「鹿児島（地元）」と「アジア」だったためホームページなどでチェックしていた。

(12) 海外就業体験をどうアピールし、何が評価されたか

現地のサッカーチームのボランティアに応募したことがある。結果としては受からなかったが、自ら調べてアプローチした経験を話した。また、国際貿易資格 FITT の勉強をしてきたのでその点もアピールした。

→評価された点：お酒の席で人事に言われたのが「履歴書の字が丁寧だった」ということ。また、自分は会社についてよく調べており、例えば、面接時に同社の株価を聞かれたときも唯一受験者のなかで答えられた。

(13) 帰国後から内定確定までにどれぐらいの期間を要したか

1 か月半。1 社目で決まった。

(14) 就職活動は満足できる結果だったか。また、その要因は何か

あまりにもうまく行きすぎたと思うほどスムーズに決まった。面接を受けた日の夕方には採用通知のメールが来た。人事によると「他の会社に行かないように」との配慮があったとのこと。また、ハローワーク経由での応募は熱意の強い応募者が多いとの印象もあったとのこと。

<就業状況>

(15) 現在の業種、職種

腕時計のベルト製造を行う会社での生産管理業務。

1 週間のベトナム研修を受けたのち、翌日（インタビュー翌日）よりベトナムに赴任する。赴任先はホーチミンの工場で、日本人 17 名、ベトナム人 3000 人の所帯。

(16) 海外就業体験がどのように活かされているか

実際に業務で活かすのはこれからなのでまだわからないが、外国人とのコミュニケーションには役に立てると思っている。語学（英語・ベトナム語）が通じるかどうかは別として、カナダはいろんな人種が混じっている環境だったから、どんな人ともコミュニケーションする点については他の人よりも自信がある。

(17) 会社が海外就業体験者に期待していること。

ますます期待していると思う。実際、今まで新卒は取らなかったが（職歴のない）自分も採用されている。1 か月前に入社した人はタイで働いた経験があったとも聞いている。

(18) 海外就業体験を今後どのように活かしていきたいか

上記と重なるが、グローバルな環境のなかでどんな文化的背景がある人も受け入れてやっていきたい。また、若い人にも海外で学ぶ良さを広めたいので、出身高校に行って講演会をやりたいくらいの気持ちがある。

<GlobalACE>

(19) キャリア・コンサルタントとのコーチングで役にたったこと。

毎月、話をしていたので、常に振り返るきっかけをくれた。一年通してサポートしてくれて「毎月成長しているよ」と言ってもらえ自信になった。Global ACE を受けていなかったら就職できなかったと思う。

(20) GlobalACE のサポートをどのように活用したか。

どうやって自己アピールをするか、カナダで何を得たか、を分析してもらった。その結果、「足りないところを自らの力で見つけて、積極性をもって行動する」ことが自分の長所であると明確に見えた。

<その他>

(21) これから、海外就業体験する若者へのメッセージ。

負担がかからない程度にとりあえずチャレンジすることが大事。

9回失敗して、1回うまく行けばよい。自分も、最初は相手の顔色を窺って、ちょっと変だなと感じると気にしがちだったが、だんだんと変わっていった。

R・H氏

男性、27歳、カナダ（バンクーバー）

語学留学・専門留学（インターンシップ込）

総滞在期間：3年

自信が人生を大きく変えた。

海外営業の29歳は、職歴なしの元ひきこもり青年。

【考察ポイント】

- ・人生設計を狂わせた交通事故という不運から本来の自分を取り戻すための留学だった。
- ・インタビュー中何度も出てきたのが「主体性」という言葉。受け身でなく自ら動いた留学生活の重みを感じられる。
- ・前歴に関係なく現在の本人を評価した企業との出会いで、これからのキャリアに期待。

<渡航前について>

(1) 渡航動機

大学在学中に交通事故にあったことが原因で当時学んでいた福祉の資格取得に必須の単位を取得できず、卒業後は無職に。ひきこもりがちになり、その自分を変えようと思い立ち留学を決意。洋楽好きがきっかけで留学にはもともと関心があった。アメリカ英語に近く治安が安定しているカナダを選択。

(2) 前職（業種、職種、正社員、契約など）

無職。

<滞在中について>

(3) おおまかな活動内容

語学留学 6ヶ月→国際貿易資格 FITT 取得のため専門学校へ。同校には 2 年間の就学。カリキュラムの一環として、学校授業と並行しつつインターン期間 1 年。

インターンは以下の 2 種。

- ①マーケティング会社でのアシスタント業務を半年間
- ②有機食品取扱勝手でリサーチ業務などを半年間

(4) 大変だったこととそれをどう乗り越えたか。

一番大変だったのは言葉の問題だった。学校では先生が生徒に合わせてくれたが、実際の就労現場ではノーマルスピードについていく必要があり骨が折れた。なかでも、2 社目の

有機食品会社にはスコットランド人や南米出身者などもおり、さまざまなイントネーションに対応する必要があった。

乗り越え方は、できるだけ話す時間を設けるようにしたこと。当初は個々に食べていたランチも人を誘ったり、朝少し早めにいっておしゃべりをしたりした。

(5) 意識していた(気をつけていた)こと。

上記のとおり。

(6) 一番印象に残っているエピソード。

毎日1時間ほど遅刻してくるカナダ人がいたこと。あれこれ言い訳をするので驚いた。(その人はさすがに1カ月程度で退職となった)

(7) 居住環境 (ホームステイ、シェアハウス、寮、アパート等)

学生寮、ブラジル人とのシェアハウス、日本人とのシェアハウス

(8) 仕事、ボランティア、インターンシップの見つけ方。

2社とも専門学校の日本人スタッフからの紹介

(9) 英語力向上のための取り組み。

日本人以外のいろんな国の友だちを10人程度誘ってコーヒーショップでお茶をしたりしていた。また、「英語耳」という本に従って発音トレーニングを独自に行った。毎日30分～1時間欠かさなかったので、大きな差となったと思う。

<就職活動について>

(10) 就職活動の方法

ハローワーク

就職エージェント「リクナビ」(仕事が決まったのはこちらのルート)

(11) どのような準備をしたか

特にしていないが、Global ACE のカウンセリングで気持ちを整えた。

(12) 海外就業体験をどうアピールし、何が評価されたか

海外就業体験よりも、たとえば、友人達を誘ってお茶の時間を設けるようにしたようなエピソードなど、現地で主体性を持って行動したことをアピールした。

評価されたのはものの考え方、ポジティブさではないかと推測する。

(13) 帰国後から内定確定までにどれぐらいの期間を要したか
6〜7 か月ほど。

(14) 就職活動は満足できる結果だったか。また、その要因は何か

就職活動前半は自信が持てずにいた。特に、この年齢まで職歴がないことがひっかかっていて。そのことをつっこまれるとひるんでいた。

就職活動後半はつっこまれることに対してしっかり対応できるようになり自信がわいてきた。面接を楽しむように心がけたので、後半については満足している。

<就業状況>

(15) 現在の業種、職種

精密機械の潤滑装置を扱う企業の海外営業。現在は商品知識をつけつつ、アメリカ支社への出張業務なども行う。

(16) 海外就業体験がどのように活かされているか

渡航前は自信がなかった。しかし、海外で「成し遂げた」という達成感がわき自信ができた。今は、やれることがあるなら何でも飛びつきたいと思っている。

(17) 会社が海外就業体験者に期待していること。

会社はどんどん海外に進出する方針。中小企業のため、海外留学経験者は少なく、その点で期待されている。英語力についても上司から実践的であると評価を受けている。

(18) 海外就業体験を今後どのように活かしていきたいか

国によるが、海外赴任などの機会があれば役にたちたい。

<GlobalACE>

(19) キャリア・コンサルタントとのコーチングで役にたったこと。

100%役に立った。面接の方法を知らなかったので、面接官がどこを見ているかなど具体的な指導をもらった。

(20) GlobalACE のサポートをどのように活用したか。

精神面で支えてもらった。特に就職活動前半の落ちこんでいた時期の支えは大きかった。Global ACE は受け身の姿勢で受けても意味がない。何を悩んでいるか、きちんと伝えれば、それに応えてくれるものだと思う。

<その他>

(21) これから、海外就業体験する若者へのメッセージ。

とにかくいろんな人とコミュニケーションをとることが大事。日本人と知り合うことも気休めとしてときには良いが、海外でしかない出会いを大切にすべき。

そうして、日本人らしい考え方だけでなく、いろんな価値観を知り、刺激を受けることで自分がやわらかくなっていく。帰国者はグローバルな仕事に就くケースも多いと思うが、それならなおさら、多様な価値観を知ることが重要となるはずだ。

T・Y 氏

女性、30 歳、オーストラリア

語学留学、アルバイト、ファームステイ

総滞在期間は 1 年 3 か月

高いスピーキング力をもってキャリアチェンジに成功。

キーワードは「わからないときはわからないと言う」。

【考察ポイント】

- ・インタビュー中、何度も口にしていたのが「失敗を恐れなくなったこと」「わからないことはわからないと言えるようになったこと」の 2 点。本人がその 2 点を自分の大きな成長ポイントと認識していることがうかがえた。
- ・本人が意識しないうちに、発信（スピーキング）に重点のある海外滞在経験になっていることがわかる。
- ・「スピーキング」は武器となり採用先からも高評価。

<渡航前について>

(1) 渡航動機

まわりに行く人が多かったことから、自分もいつか行きたいと思っていた。

そんななか、毎日 12 時間勤務の激務が続き「明日死んだら後悔するな」と思い、ワーキング・ホリデービザの年齢制限ギリギリに渡航を決意する。

結局、検討の結果ワーキング・ホリデービザではなく、学生ビザできちんと勉強し資格を取る道を選択する。

(2) 前職（業種、職種、正社員、契約など）

人材派遣業および人材紹介業での営業およびカウンセリング業務（正社員）。

当時、会社でも ASEAN からの外国人留学生の就労に関わる仕事もたちあがった状況でもあり、この仕事も好きだった。いずれ日本に海外の労働力が入ってくる際、戦力になりたかったことも渡航動機の一つ。

<滞在中について>

(3) おおまかな活動内容

ブリスベンの語学学校に 1 年。

語学と並行して日本食レストランでのアルバイトを 3 ヶ月。

語学留学終了後、タスマニアのファームでの仕事を 3 か月。

(4) 大変だったこととそれをどう乗り越えたか。

日本食レストラン：

客のほとんどがオーストラリア人だったため、接客は英語。当初は意思の疎通が難しかった。乗り越え方としては、お客様に確認の動作をしたり、定型文についてはボスに確認したりした。

ファーム：

WWOOF で見つけた牛の農場。しかし、シーズンオフで牛の世話をすることはなくママのガーデニングの手伝いをしたり枯葉を集めたりして大変なことはあまりなかった。

(5) 意識していた(気をつけていた)こと。

オーストラリアなので、発音の聞き取りに気を付けていた。特に R の発音の聞き取りを間違えないよう気を張っていた。

(6) 一番印象に残っているエピソード。

日本食レストランは高級レストランの部類に入るため、記念日で使う客も多かった。半円状になっている鉄板に 10 名程度の見ず知らずの客が座る形状だったが、お祝い事は知らぬ者同士でも一緒に祝うのが微笑ましかった。

(7) 居住環境（ホームステイ、シェアハウス、寮、アパート等）

ホームステイ、シェアハウス

(8) 仕事、ボランティア、インターンシップの見つけ方。

飛び込み。レジュメを配りまくった。

(9) 英語力向上のための取り組み。

失敗を恐れずに話すこと。日本以外の国の留学生はとにかく話していて、「もっとしゃべりなよ」と言われた。失敗を恐れなくなってから、実感としてグイグイ英語力が伸びていった。その頃からわからない時はわからないと言えるようになった。

<就職活動について>

(10) 就職活動の方法

転職サイト

転職エージェント（決まったのはこちらのルート）

(11) どのような準備をしたか

帰国後 1 カ月は就職活動を開始せずに、まず TOEIC のスコア取得に専念をした。(結果、TOEIC スコアは 710 をマーク)

(12) 海外就業体験をどうアピールし、何が評価されたか

特にアピールはしていない。面接官から「留学で何が得られたか」を聞かれたときには「チャレンジすることを覚えた」「わからないことはわからないと言うようになった」と回答。

評価された点をのちに採用担当者に直接聞く機会があった。すると、決め手は「スピーキング力」だったと言われた。他の候補者のほうが TOEIC スコアは高かったが、英語面接の際の実際の受け答えが流暢だったことから実践スピーキング力が伝わったとのこと。

(13) 帰国後から内定確定までにどれぐらいの期間を要したか

8 か月。別の 2 社から内定が出ているが、それを都度断って、納得がいくまで就職活動を続けたため、長くかかっている。

(14) 就職活動は満足できる結果だったか。また、その要因は何か

すごく満足している。

仕事はまだ今月 (2 月) からスタートしたばかりだが、既に即戦力としての期待をされていて、アメリカの展示会出張にも参加させてもらったばかり。

<就業状況>

(15) 現在の業種、職種

特殊金属素材メーカーの営業職。

(16) 海外就業体験がどのように活かされているか

いろんな国の人と関わった留学生活だったので、多文化を受け入れることができる。実際、先週の海外出張では展示会に訪れる多国籍の人たちと交流したがどんな発音の英語で話されても困ることはなかった。

また、日本食レストランでは接客英語が自然に身についたため、それも活かしている。

(17) 会社が海外就業体験者に期待していること。

自分自身は将来、海外 (欧米) 営業チームへの転属を視野に、現在は商品知識をつけるため国内営業チームに所属している。

会社自体が、今後グローバルでの営業拡大を方針としているのでとても期待されていることを感じる。

(18) 海外就業体験を今後どのように活かしていきたいか

現在の商品は医療機器メーカーに部品として使用するものなので、ぜひ、どんどん海外メーカーに売り込んでいきたい。日本のものは良いものなので、これを世界に広めたい。

また、留学経験で「後悔しないように生きよう」という意識が強くなった。昔は会社を辞めたら不安だな、などクヨクヨ考えることもあったが、今後は、いまできることは全部しようという考えに変わった。

<GlobalACE>

(19) キャリア・コンサルタントとのコーチングで役にたったこと。

目的意識をつけてくれたことが大きかった。渡航中、月に一度考えるきっかけをくれた。得たいことからさかのぼって、いまどこに到達しなければならないかを明確にしていた。

(20) GlobalACE のサポートをどのように活用したか。

帰国後、現地で無意識に活動したことを分類してくれた。

たとえば、引っ越しトラブルに見舞われたときに学校の先生に相談したことを話したら「行動力」「発信力」などの能力に分類し言語化してくれた。

<その他>

(21) これから、海外就業体験する若者へのメッセージ。

①チャレンジしてください。

②自分は学生ビザでの渡航だったので、ずっと同じ場所にいたことがちょっと残念。もっと日本人が少ない場所にも行きたかったので、いろいろ行ってみるのもおすすめ。

③（渡航者向けではないが）日本で職歴にブランクが空いている人を低評価する風潮はどうにかならないだろうか。チャレンジした人が評価される社会になってほしい。

A・I 氏

女性、30 歳、オーストラリア（ケアンズ、メルボルン）

語学留学、ワーキング・ホリデー

総滞在期間：9 か月

無駄なき戦略的留学生生活を、強い精神力で全うする。

たった 9 ヶ月の滞在中で、望むグローバルキャリアへ。

【考察ポイント】

- ・ 1 年に満たない海外生活で最大限の効果を得るべく計画。
- ・ 強い意志をもって確実に計画を遂行。
- ・ 目的を達した時点で、ワーキング・ホリデービザ期間の猶予を残しつつも躊躇なく帰国。
無駄な出費と時間を費やさない。

<渡航前について>

(1) 渡航動機

前職の仕事を今後どう続けていくか迷っていた。ある日、入浴中に「よし、行こう！」
と思い決意。

(2) 前職（業種、職種、正社員、契約など）

看護師（正社員）

<滞在中について>

(3) おおまかな活動内容

ケアンズの語学学校に 6 ヶ月

→帰国

→ワーキング・ホリデービザを取得して再渡豪

→メルボルンの語学学校に 3 か月

メルボルンでは OET（オーストラリアの看護師資格を取得するための英語試験）準備
コースや、現地の看護現場を視察するコースなどに在籍。

(4) 大変だったこととそれをどう乗り越えたか。

ステイ先のお湯の調節が難しかったこと（すぐ熱いお湯が出てきてしまう）。

また、一度、学校の先生にクラス全員で不満を持ったことがあって、その際はみんなで話し合っ
て教務に意見を言いに行ったことはある。

(5) 意識していた(気をつけていた)こと。

YES・NO をしっかり言うこと。

(6) 一番印象に残っているエピソード。

クラスメートがホストファミリーともめて、家主に交渉してあげたことがある。

(7) 居住環境（ホームステイ、シェアハウス、寮、アパート等）

学生寮、ホームステイ、シェアハウス

(9) 英語力向上のための取り組み

毎日日記を書いた。そんなに毎日書くことも見つからないので、ネットで見つけた気になる一言について自分の意見を書いたり、誰かの言葉を引用してそれについてまとめたりした。とにかく毎日続けた。また、プレゼンの練習も行った。

ちなみに TOEIC スコアは渡航前 540 から最終的に 815 までアップ。

<就職活動について>

(10) 就職活動の方法

転職サイト

(11) どのような準備をしたか

「医療と英語」をテーマに仕事探しをしていたので、2回の渡豪の合間の帰国などもサイトを見たりして調べていた。

(12) 海外就業体験をどうアピールし、何が評価されたか

特にアピールはしていないが、現在の上司でもあるオーストラリアのディレクターと電話面接があった。

評価された点は前職もきちんとしていたことと推測する。また、ディレクターはチーム単位での仕事をとても重視するタイプなので、チームに対してどう貢献できるかについて質問され、それにきちんと答えたことが評価につながったと思われる。

(13) 帰国後から内定確定までにどれぐらいの期間を要したか

3 か月。

(14) 就職活動は満足できる結果だったか。また、その要因は何か

満足している。

前職の看護師も好きな仕事だったが、もともと考えることが好きで前職中も効率を上げるための施策を考えたりもしていた。今回、その特性を活かせる仕事を得られた。

<就業状況>

(15) 現在の業種、職種

業種は医療。新薬の治験を担当する部署がこの4月にアメリカの会社との合弁で設立され、そのチームに所属。

(16) 海外就業体験がどのように活かされているか

英語で話すのが当たり前の環境なので、語学力が活かされている。同じチーム内はオーストラリアのディレクターのほかアメリカで看護師経験がある人など4人＋在宅スタッフ＋シンガポールスタッフ、といった形でインターナショナルな環境にあるが、ためらわずに仕事に携わることができる。

(17) 会社が海外就業体験者に期待していること。

英語力、経験、チームワーク。

(18) 海外就業体験を今後どのように活かしていきたいか

違いを受け入れるよう努めたい。

あらゆる意見を「そのような意見もあるのだ」という土壌を持ち、ムード作りにも活かしていきたい。

<GlobalACE>

(19) キャリア・コンサルタントとのコーチングで役にたったこと。

ケアンズではスカイプ環境がとれなかったので、メッセージのやり取りを通じて役にたったと感じている。目標を都度たてながら、やったことを身に落とししてもらった。

(20) GlobalACE のサポートをどのように活用したか。

企業への就職活動をするのは初めてだったので、履歴書とか内定とかいろいろ教わった。第三者に話し、客観的な視点がもらえるというのが最大のメリットだと思う。

<その他>

(21) これから、海外就業体験する若者へのメッセージ。

悩んだら口にする。口に出せばだれかがアクションするから。また留学して本当に「本当に！！」よかった。留学しなければ出会えなかった人たちがたくさんいた。

M・Y 氏

女性、29 歳、カナダ

ワーキング・ホリデー、インターンシップ

総滞在期間：1 年間

ボランティア 2 つ・インターン 2 つ・バイト 3 つ。
気負いなくいろいろやってみたワーキング・ホリデー。

【考察ポイント】

- ・強い動機なく渡航。
- ・わずか一年の間に 7 つの職種を経験したことが財産となっている。
- ・熱意も良いが冷静さも大事。自分にメリットがないとわかれば潔く切り捨てている（投資会社のインターンを「英語を使う機会が少ない」との理由で即やめている）。

< 渡航前について >

(1) 渡航動機

以前カナダに旅行した際、またここに来たいと思っていた。

ワーキング・ホリデーは年齢制限があるから、そろそろ行かなきゃと思って応募した。

(2) 前職（業種、職種、正社員、契約など）

ウェブ関連企業で正社員。

当時はクリエイティブの制作補助や事務などアシスタント業務が主だった。

< 滞在中について >

(3) おおまかな活動内容

語学学校に 5 か月。

家庭教師についての英語学習を 1 ～ 2 か月。

並行して、以下のようなボランティア・アルバイト・インターンなどを行った。

■ ボランティア

- ・薬局での補助（週 1 ～ 2 日）
- ・日本語学校でのサポート（週 1 日）

■ アルバイト

- ・惣菜店（1 ～ 2 か月）
- ・韓国人経営の寿司屋（1 か月弱）
- ・ラーメン屋（1 か月弱）

■インターンシップ

- ・投資会社（数日）
- ・ホテル（2カ月弱）

(4) 大変だったこととそれをどう乗り越えたか。

韓国人経営の寿司屋でのキッチンワークで、調理場に置いてあった洗剤の刺激が強く、すごく手荒れをしてしまったこと。その職場をやめて、洗剤を使わなくなったら少しずつ治った。

(5) 意識していた(気をつけていた)こと。

当時、すごく意識していたわけではないが、後から考えれば、それぞれの職場で、うまく人間関係になじむようにはしていた。

(6) 一番印象に残っているエピソード。

韓国人は日本人よりも上下関係が厳しい。一切の反論はできないのだと思った。

(7) 居住環境（ホームステイ、シェアハウス、寮、アパート等）

ホームステイ、シェアハウス

(8) 仕事、ボランティア、インターンシップの見つけ方。

- ・ボランティアとアルバイト：現地のネット掲示板
- ・インターンシップ：エージェント

(9) 英語力向上のための取り組み。

個人の家庭教師についたこと。発音に重点を置いて練習したかったので、そこに強い先生を探した。語学学校に通うのも良いが、グループでレッスンしていると舌の使い方や口の開け方など一人ひとりを指導してもらうことはできない。

<就職活動について>

(10) 就職活動の方法

ハローワークと転職サイト。

(11) どのような準備をしたか

履歴書を書いたくらい。

(12) 海外就業体験をどうアピールし、何が評価されたか

特にアピールしていない。何が評価されたかは、不明だが「英語はできるんでしょ？」とは聞かれた。

(13) 帰国後から内定確定までにどれぐらいの期間を要したか
2 か月。

(14) 就職活動は満足できる結果だったか。また、その要因は何か
満足。

以前はアシスタント的な立場だったが、いずれ、専門職につきたいと思っていたから、その方向に進むこともできた。また、以前の職場は女性が多く、苦手な環境だったが、今度の職場は男性 8 割でやりやすい。

<就業状況>

(15) 現在の業種、職種
設計・CAD。

今は補助的業務を行いながら勉強をしている。

(16) 海外就業体験がどのように活かされているか

よく「上司と合わない」と愚痴る友人がいるが、自分にはそういうことはない。
現地でいるんな上司と関わったから、「上司とはそういうものだ」という器ができた。

(17) 会社が海外就業体験者に期待していること。

先日、「これを訳して」と翻訳の依頼をされた。今は残念ながら、用語が専門的すぎてわからないため十分に貢献できていないが早く覚えたい。

また、海外勤務の可能性もあるので、もっと専門スキルをつけてから、海外要員としても期待されるようになりたい。

(18) 海外就業体験を今後どのように活かしていきたいか

社内にはアジアなどから来た外国人もいるため、自分が潤滑油になれるかもしれない。
とりあえずは海外経験を活かすより、目の前に覚えなければならないことが山ほどあると感じている。

<GlobalACE>

(19) キャリア・コンサルタントとのコーチングで役にたったこと。

自分は、意見を言ってもらいたいタイプ。たとえ違う意見でも、第三者の目から客観的に見てどうかを言ってもらいたいのでとても役に立った。

(20) GlobalACE のサポートをどのように活用したか。

月一回のコーチングのほか、自分から相談したいこともあったのでそれにも柔軟に対応してもらえた。月一回の頻度は良いと思う。ちゃんと自分がやっているかな、と振り返るきっかけになる。

<その他>

(21) これから、海外就業体験する若者へのメッセージ

ワーキング・ホリデーは年齢制限があるうえ、一年の期限がある。やりたいと思ったことはとりあえずやる。嫌ならやめればよい。もうちょっと旅行すればよかったなと思うこともある。

K・S 氏

女性、30 歳、オーストラリア

大学院留学（学業のかたわらインターンシップを経験）

総滞在期間：約 2 年間

大雑把な性格のオーストラリア人上司や締切を守らないインド人。

グローバルな対人能力を養えた。

【考察ポイント】

- ・ 目的意識がはっきりしており（MBA 取得優先）、インターンシップ体験がうまく学業の息抜きになっている。海外就労自体はハードなことだが、MBA はある意味でさらに過酷なので、インターンが国際交流経験をより多彩なものにする機会となった。
- ・ Global ACE のコンサルを通して、そのとき何に集中すべきかをうまくリードしてもらった。
- ・ 海外就労経験を通じ世界中の人と交流したことで、現職でグローバルな現場に急に出ることになっても動じず、むしろ楽しんで従事できている。

＜渡航前について＞

（1）渡航動機

渡航前の勤務先で早期退職者の募集があり、応募。

退職理由は会社全体のリストラ施策で、前に所属していた部署に戻ることが決定し、また同じことに携わることに魅力を感じなかったから。早期退職金を元手に以前から関心のあった留学を決意。

英語だけを学ぶのはきっと飽きてしまうと思い、英語で何かを学ぶ留学をしたいと考え検討した結果、学位がとれて将来につながるという理由でビジネススクールへの留学に決定。

（2）前職（業種、職種、正社員、契約など）

外資系損保会社で総合職（正社員）。

＜滞在中について＞

（3）おおまかな活動内容

Deakin 大学付属英語学校の最上級クラスに入学し英語に慣れてから Deakin Business School で MBA プログラムに入学。就労体験は、卒業した Deakin 大学付属英語学校で募集されたインターンシップ。

同インターンは有給で週一回。内容は世界中から入学してきた留学生のサポート業務。具体的には、入学オリエンテーションの準備・運営・アテンドや、学生証作成のお手伝い、キャンパスツアーのアテンド、インターネットの使い方指導、など。

(4) 大変だったこととそれをどう乗り越えたか。

上司のオーストラリア人が適当だったこと。行き当たりばったりの指示をしがちだった。

例えば、入学オリエンテーションに参加する学生数を 200 人と指示出しされそのように席数を準備していたところ、実際には 300 人だったことがある。100 席足りないことが判明すると、今度は許可なく別教室からごっそり椅子を持ち出して勝手に使用。一事が万事「そんなこともあるさ」というスタイルなので働くリズムが全く違った。

日本の常識を持ち込まず相手に合わせつつも、不測の事態に備える心構えをもつようにした。

(5) 意識していた(気をつけていた)こと。

上記のとおり。

(6) 一番印象に残っているエピソード。

世界中いろんな国から留学生が来るので、なかにはインターネット使用に「パスワード」が必要なことを知らない人もいた。教えてあげたらとても感謝された。改めて国によって様々な事情があることを知った。

またインターンの内容にはバーベキューをやったり、一緒にレクリエーション用のスナックを袋詰めするなどの作業もあったので交流がとても楽しかった。

(7) 居住環境（ホームステイ、シェアハウス、寮、アパート等）

シェアハウス

(8) 仕事、ボランティア、インターンシップの見つけ方。

インターン先である英語学校がチラシを配っていた。

(9) 英語力向上のための取り組み。

MBA 受験で IELTS 取得のために、フィリピンに 3 か月間の語学留学をしていたためある程度の英語力はあった。フィリピンでは朝 6 時から夜 9:30 までずっと勉強漬けの毎日。その結果、Overall で 6.0、Reading で 7.0 を取得。

<就職活動について>

(10) 就職活動の方法

転職エージェントを利用。

(11) どのような準備をしたか

Global ACE コンサルタントの指導のもと、留学中から日々のことを記録していた。

(12) 海外就業体験をどうアピールし、何が評価されたか

海外就業体験というよりも、前職（同業種）からの転職となったため、前職の経験を細かく聞かれ、どういう戦力になるかを見られていたと思う。

(13) 帰国後から内定確定までにどれぐらいの期間を要したか

2015年7月頭にエントリー、7月末にはエージェントに会い、3社と面接。8月中旬に内定が出た。

(14) 就職活動は満足できる結果だったか。また、その要因は何か

今のところ就業してまだ3か月だが、もっとやりたいと期待を持てる仕事状況なので、就職活動の結果としては満足している。

<就業状況>

(15) 現在の業種、職種

損害保険会社のデータ管理部に所属。

同社はダイレクト型の商品展開が特徴で、電話による問い合わせ→見積もり→契約のルーティンを所属部署が一元管理している。このダイレクトオペレーションの持つ豊富なデータを分析し、より良い結果のための仮説と検証を行っている。

(16) 海外就業体験がどのように活かされているか

MBAで統計学を学び統計ソフトなども使い慣れていたのもそのまま現職に直結している。また、マネジメントしている上司は本社のあるフランス人であるが、外国人慣れしているため特におどおどせずに対応できている。

(17) 会社が海外就業体験者に期待していること。

世界中に支店があるため、グローバルなテレビ会議なども行われる。海外慣れしているという理由で入社早々からアサインされ出席しているし今後もそのような場での役割を期待されているのではと思う。会社としてはグローバルな交流を求めていると思う。

(18) 海外就業体験を今後どのように活かしていきたいか

本社（パリ）や支店のひとつ（シンガポール）で研修する機会があると聞いている。もっと仕事に慣れてきたらそのような機会にも志願したい。

<GlobalACE>

(19) キャリア・コンサルタントとのコーチングで役にたったこと。

心の支えになった。たとえば「インド人がグループワークをやってこなくて困る」と言ったような愚痴を言うと「いずれ仕事でインド人と接するときに役立つね。」という具合につねにポジティブなアドバイスをもらえた。

(20) GlobalACE のサポートをどのように活用したか。

月に一回話をして励ましを受けた。現地にいると日本の状況が気になって不安に思ったときは「今は日本のことは気にせず、そちらでしかできないことをやりなさい。」と言われて安心したり、ストレス解消になったりした。

<その他>

(21) これから、海外就業体験する若者へのメッセージ。

そもそも学位をとることが第一目的だったのであまり遊ぶことがなかったのが少しだけ残念。インターンも、留学生サポートだけでなくマーケティング部門の募集もあり興味があったが、そうすると週 3 日のワークになってしまい学業に差し障るのを懸念して断念した。真面目に勉強するのもいいが、良い意味で不真面目にいろいろ経験してみるのも良いと思う。

現地で働くのは想像以上に大変。自分はインターンだけだったが、現地（メルボルン）に住み働く友人はとても大変そうだった。現地人と働くことはさまざまな困難を覚悟するべきだと思う。

自分としてはオーストラリアでたくさんの人に助けてもらった恩返しを、今後、日本に来ている外国人の方々にしていきたい。

T・T 氏

女性、26 歳、カナダ

ワーキング・ホリデー

総滞在期間：1 年間

選択肢を広げてキャリアチェンジに成功。

「今の自分」に必要なことを選び、精神力を鍛えたワーキング・ホリデー。

【考察ポイント】

- ・明確な目標や計画性のもと渡航したタイプではないが、常に「現時点」で必要と思われる行動を躊躇なく実践している。
- ・就労経験が直接的な仕事スキルにつながっているというよりも、メンタルを大きく成長させていることがうかがえる。
- ・なかでもワーキング・ホリデーの最後にバンクーバーへ戻った経験が本人の強い自信につながっている。

＜渡航前について＞

(1) 渡航動機

前職は何となく就いてしまった。すごくやりたかったわけでもなく、足りないものを抱えながらずっとひっかかったままの気持ちがあった。疲れて人生を見直したいと思ったとき、就職活動するパワーがなくなりフレッシュしたかった。

特にカナダに思い入れがあったわけでもなく、過ごしやすそう、日本から近い、等の理由でなんとなく 1 年休むつもりで渡航。

(2) 前職（業種、職種、正社員、契約など）

ソーシャルワーカー（正社員）

＜滞在中について＞

(3) おおまかな活動内容

語学学校に 5 か月。

ウィスラーのホテルでハウスキーピングを 2 か月、寿司屋で 3 か月。二つの仕事は並行してのダブルジョブだった。

(4) 大変だったこととそれをどう乗り越えたか。

ネイティブスピードの言葉についていくのが大変だったが、ノリで乗り越えた。

ホテルでの仕事はフィリピン人が多く、テンションがすごく高かった。そのテンションの高さに自分を合わせるようにし、チームワークも生まれ、すべての空気が良くなった。

また、最初の語学留学 5 か月間は、自分にとってあまり良いものではなかった。しかし、ウィスラーでの就労経験を経て、もう一度バンクーバーにリベンジしに戻ることができ、バンクーバーでの思い出を良いものにすることができた。当初、語学学校では自分がどうしたいかわからず、受け身でいた。本当は「友だちを作る」と割り切って学校に行けばよかったのだということに気が付き、ワーキング・ホリデーの最後に友だちを作るためにバンクーバーへ戻った。

(5) 意識していた(気をつけていた)こと。

特に寿司屋においては自分の役割は日本人らしさと認識して動くようにしていた。当初、自分が外国人として外国に来ていることを意識しすぎて一歩引いていた。しかしふと、「日本にいるときに自分ならどう動くだろう」と考え、海外で働いていることを忘れてみた。すると、伝えるよりまず動くということに気が付き、それからはその意識で動くようになった。

(6) 一番印象に残っているエピソード。

ハウスキーピングで部屋をキレイにすると、長期滞在客などがわざわざ自分宛てに「この部屋はとてもきれいだった」と言いに来てくれたりした。”Beautiful smile!” と言ってもらえたこともあり、「いいな」「好きだな」と思ったら素直に伝えることが大事だと感じた。

(7) 居住環境（ホームステイ、シェアハウス、寮、アパート等）

一軒家をシェア。当初 4 人でのシェアだったがすぐに女性 1 人とのシェアに。この女性は職場の上司でもありとても厳しい人でもあったので、関係を良くするためにメールで話し合いをしたりしてコミュニケーションをはかったこともある。

(8) 仕事、ボランティア、インターンシップの見つけ方。

- ・ホテル：バンクーバーのエージェント
- ・寿司屋：家から近かったので飛び込み（すごく忙しいときに突撃してしまって、最初は撃沈。経営者のカナダ人に「CV も持ってないなんて出直してきなさい！」と追い返されたが、次に CV を持参したらすごくいい人だった）

(9) 英語力向上のための取り組み。

わからないことをわからないままにしないようにした。最初は”Another one”と言われてもわからなかったが、同僚に聞き「同じものを」という意味だとわかった。

<就職活動について>

(10) 就職活動の方法

転職サイト、ハローワーク。

(11) どのような準備をしたか

ハローワークでの面談。

(12) 海外就業体験をどうアピールし、何が評価されたか

自分からアピールするまでもなく（現職の）デパートでは語学力がある人がとても必要とされている。評価された点も語学力だと思う。また、評価された点のもう一つは「第一印象」でもあったそうだ。

(13) 帰国後から内定確定までにどれぐらいの期間を要したか

履歴書を送付し始めたのが8月後半で9月上旬には決まった。

(7月中旬には帰国しているがすぐに就職活動を始めたわけではない)

(14) 就職活動は満足できる結果だったか。また、その要因は何か

満足している。きちんとした振り返りのもと、希望の仕事に就けた。

<就業状況>

(15) 現在の業種、職種

デパートでの輸入時計の販売。

(16) 海外就業体験がどのように活かされているか

自分が海外に行ったからこそ、海外から日本に来ている人の目線にたてる。現在、お客様には中国人を含む外国人が多いため、お客様の目線にたてていると思う。

(17) 会社が海外就業体験者に期待していること。

語学の面ではかなり期待されていると感じる。実際、「何か語学のことで困ったことがあったら、〇〇さんに聞いてください」と他スタッフに通達されたりもしている。

また、年齢的にも28歳というのは若い人と上の人との中間となり、キャリアのなかでの良いタイミングにあると感じている。

(18) 海外就業体験を今後どのように活かしていきたいか

販売員の仕事だけではもったいないなとも感じている。

いずれはもっと若い人たちに海外就業の経験を話したり、そのような経験の貴重さを伝えたりもしたい。

<GlobalACE>

(19) キャリア・コンサルタントとのコーチングで役にたったこと。

滞在中、ずっとサポートしてもらった。日常のことについても支えになってくれた。

1 カ月単位のキャリアカウンセリングなので活動を月ごとに記録することができた。そのおかげで、いざ就職活動しようと思ったときにすぐスタートを切ることができた。

(20) GlobalACE のサポートをどのように活用したか。

記録してきたことを振り返り、それらが何に活かせるかを分類し、あてはめてもらった。

<その他>

(21) これから、海外就業体験する若者へのメッセージ。

(日本の) 学校では世界のことはなかなか教えてくれない。目にしたり、触れたりして初めてわかることがある。本当は、私たちの選択肢はもっともっとある。それが外へ出たらすごくわかる。若いうちにいろんなものに触れて、選択肢を広げてほしい。

また、行っただけでは意味がない。どう活かせるか、自分のなかに何が秘められているかを見つけよう。

本当に行ってよかったと思っている。

M・N氏

女性、29歳、イギリス

ワーキング・ホリデー

総滞在期間：半年間

ハードワークな職場やハプニングに見舞われる。

困難もあったが発見もあった。

【考察ポイント】

- ・（世間の期待するような）サクセスストーリーではない。
- ・現地で悩んだことや失敗は、帰国してすぐには生かせていない。しかし、それらの経験もあっけらかんと受け止めている。
- ・何と言っても、海外に住んだことがあるのは強いと思っている。

<渡航前について>

(1) 渡航動機

25歳のときにオーストラリアに1年の予定でワーキング・ホリデーで渡豪したが、あまりオーストラリアを好きになれずにすぐ帰ってきてしまった。帰国後、仕事をしながら、漠然と英国のワーキング・ホリデービザに応募だけはし続けていた。毎年落選していたが28歳のときに当選。せっかくだから行こうかと思い渡英。

(2) 前職（業種、職種、正社員、契約など）

携帯会社で講師業を務めていた（正社員）。携帯モラル（LINEやSNSのモラルなど）を小学校で教える出張講師としてや、量販店にて営業スタッフ向けの研修講師など。

<滞在中について>

(3) おおまかな活動内容

語学学校に3か月。日本食スーパーでアルバイトを1か月。その後、フランス、モナコ、スイスなどを旅行。

(4) 大変だったこととそれをどう乗り越えたか。

勤務先の日本食スーパーの雇用主は日本人だったが、ハードワークな職場で、一日12時間労働したり、誰も口答えできないような空気だった。

ここで働いていて意味があるのかと考えていたときに、お金を盗まれ（勤務先とは関係なく）、精神的に大きなダメージを受けいったん仕切りのおそうと思い退職と帰国を決めた。

また、勤務先ではないがホームステイ先も大変だった。ホストはユダヤ教でその習慣に合わせるよう強要された。金曜日は儀式の日で必ず家にいなければならなかったり、ベジタリアンであるホストに合わせてたとえ自分だけが食べるものであっても肉を口にすると怒られた。

(5) 意識していた(気をつけていた)こと。

店内にいる客には自分から声をかけるようにしていた。

(6) 一番印象に残っているエピソード。

日本のスーパーでは、レジでの会話などないが、英国では必ず一言二言の会話を交わすのが新鮮だった。挨拶したり、日常のたわいないことを言ったり、「ありがとう」と言ったり。

(7) 居住環境（ホームステイ、シェアハウス、寮、アパート等）

最初はホームステイ。次にシェアハウス（日本人を主に入居させているところに日本人4人）へ移動。

(8) 仕事、ボランティア、インターンシップの見つけ方。

ミックスビーという掲示板を活用した。

不採用となったが、一度スパニッシュレストランにも面接に行ったことがある。それは、シェアハウスの同居人の紹介だった。しかし、レストランはローカル向けで、面接はすべて英語。あとから知ると英語面接の常套であるそうだが「あなたがこの店で働く場合、この店にもたらすメリットを3つ挙げなさい」のような質問をされてタジタジになった。結果は不合格。英語ができないと無理だと痛感し、それが日本食スーパーでのアルバイトを探すきっかけになった。

(9) 英語力向上のための取り組み。

滞在期間全体における英語力向上の取り組みは主に語学学校に通ったこと。

<就職活動について>

(10) 就職活動の方法

派遣会社に登録した。

(11) どのような準備をしたか

帰国後は3か月間、職業訓練（国際ビジネスマスター科）へ通い貿易事務を学んだ。

(12) 海外就業体験をどうアピールし、何が評価されたか

評価されたのは前職（講師、対人）の職歴。貿易事務業務は複数の人と関わるため、感じの良い応対ができるのではないかと思われた。

(13) 帰国後から内定確定までにどれぐらいの期間を要したか

半年。

(14) 就職活動は満足できる結果だったか。また、その要因は何か

今はまだ結論は出ない。いずれは英語を使う仕事につきたいから、引き続き英語を勉強している。

<就業状況>

(15) 現在の業種、職種

自動車会社のグループ企業で IT 管理を担う会社に紹介予定派遣で就職。試験を通過すれば正社員となる見通し。同社はブログ管理やキャンペーン管理、データ管理などを行っている。

(16) 海外就業体験がどのように活かされているか

新しい職場に移るので、まだわからない。

(17) 会社が海外就業体験者に期待していること。

今度の職場は海外就業体験者だからといって特段の期待はしていないと思う。

(18) 海外就業体験を今後どのように活かしていきたいか

海外にも事業所があるし、（英語は使わないと言われたが）今は深く考えずとにかく仕事を覚えて前向きにやっていきたいと思う。

何と言っても、海外に住んだことがあるのは強いと思っている。

どんなに TOEIC でハイスコアを持っていても、実際に現地に住んで使ったという対応力のほうがずっと強い。座学だけで TOEIC 800 以上を取得した友人が、あるグローバル企業の面接に落ちた。その断りのレターを見せてもらったところ、私はすぐに理解できたが、当の本人は理解していなかった。細かい単語などわからなくたって全体の文脈から想像することができるし、そういう能力は住んで困った経験をしたからこそ身についたと思う。

<GlobalACE について>

(19) キャリア・コンサルタントとのコーチングで役にたったこと。

すごく役に立った。特に、お金を盗まれたときは、とても落ち込み、帰るか否か悶々と

いていたときに背中を押してくれたのが Global ACE のコンサルタントだった。「そんなに
つらいのなら、一度帰ってきてから仕切りなおせばいい」と言ってもらえて、自分の気持ち
に素直になれた。

(20) GlobalACE のサポートをどのように活用したか。

帰ってきたあと相談しながら、最終的には自分で決めることだという思いに至った。

<その他>

(21) これから、海外就業体験する若者へのメッセージ。

何かひとつ目標を決めると良い。現地では思っていたのと違うことが起きるのでバネに
なると思う。

第6章 相談事例

Global ACE の支援対象者から受けた相談の中から代表的なものを抽出し回答例を添えて紹介する。

	相談・質問	回答
現地での就労	現地での仕事（インターン、ボランティアなども含め）の探し方	・ 現地の友人、知人からの紹介 ・ 現地クラシファイド・掲示板サイト（craigslist など） ・ 直接アルバイト先へ訪問 ・ レジメ配布 ・ 留学エージェントに相談 ・ 現地のミニコミ誌、フリーペーパーなど ・ 現地の人脈活用。その方法として、現地で既に長く生活されている日本人と接触や、現地の大学に通っている日本人、外国人と接触を図る。
	どんなバイト・ボランティアが将来へつながるのか？再就職へ効果的か？	生活の為に働くことは、もちろん必要であるが、今の仕事で何かスキルを身につけるつもりで働くことが大切。そのことが自己 PR につながる。
	インターンシップの仕事の選び方	その仕事で求められることを考え自分にできるか否かを検討する。またそれぞれの仕事のメリット・デメリットを比較する。
	ローカルのカフェで働きたいが、なかなか決まらない。日本食レストランならすぐに紹介してもらえるが、決めてしまってよいか？	金銭面で早く仕事をする必要があれば、まずは仕事をすることを優先した方が安心。まだ余裕があるのであればもう少し職探しを続けてもよい。但し、日本食レストランでも英語に触れる機会は自ら作り出すこともでき、逆にローカル店であっても受け身では決まった英語しか話さず、英語力も基礎力も身に付かない。環境のせいにせず、自分から働きかけていく姿勢を持つことが大切。
	ローカルのカフェで働くために、バリスタの資格を取るべきかどうか。将来バリスタになりたい訳ではない。	状況によってはバリスタの資格がないと仕事に就けないこともある。どうしてもローカルのカフェで働きたいのであれば、仕事に就くために資格をとることも検討したほうがいい。

	日本食レストランの仕事紹介を受けたが、希望する仕事でない上に、RSA（酒類販売資格）取得に120ドルかけて働く価値があるのか？	お酒を扱わない仕事、飲食店以外であればRSA取得は必須ではないが、一番就業先を見つけやすいのが飲食店だと考えた場合、オーストラリアで生活する場合には、RSAを取得しておくに越したことはない。
	帰国後に就きたい職業・業界をはっきりさせてから、その職業に繋がる仕事を現地でするべきか？	帰国後就きたい仕事を考える上で、やりがいや活かせるスキルを整理する必要がある。そのことで自己理解や仕事理解が深まる。しかし、現地での就労の業界職種にこだわらなくても、海外で仕事をするときに自分のスキルや基礎力をどのように発揮し、どんなことを達成できたかということを伝えることができる良い。
	インターン先はエアライン希望であったが、空きがなくホテルを勧められた。エアラインのラウンジなら空きがあるが、カフェと同じで意味がないと言われた。どうしたらよいのか？	帰国後エアラインに希望とのことなので、ラウンジでも、少しは知識を得られ、接遇や雰囲気は体験できるメリットもある。しかし、カフェと同じと思ったら成長はそこで止まってしまう。
語学	語学の上達法	・学校・就労先・地域コミュニティに於いて、積極的に英語を話す。 ・Language Exchange からパートナーを見つけ、英語でのコミュニケーションを実践・継続する。 ・語学学校、就労先で交渉・プレゼンを通し、ビジネス英語力の強化を図る。 ・日本に興味がある外国人と友達になる。 ・現地のフリーペーパーを読む、趣味を始める、テレビ・映画をみる、友達を増やす。 ・英語しか使えないアルバイトを見つける、日常会話で使えるフレーズ集を作る。 ・話す環境を自ら作り出すために、日々のプランニングの中に、新しい人に2人話しかけるなど具体的

		な行動を入れる。 ・その日言いたかったこと、言えなかったことを振り返り、ノートに貯めておき覚えていく。 ・洋画やドラマなどをその国の字幕を付けて繰り返し観て表現を覚えていく。 ・TED(Technology, Entertainment, Design の略。プレゼンテーションの番組)を視聴する。 ・英語環境に身を置く。たとえば、日本人以外がいるシェアハウスに入る。ローカルの仕事を探す。 ・映画でもテレビでもアプリでも自分の好きなものを見たり聞いたりすることでリスニング力を上げる。 ・漫画、雑誌、料理など自分の好きなものを読み、要約をしたり、感想を書いたり自分の言葉で表現する。 ・エージェントが無料の英語スクールをしていたりするので参加する。 ・教会などで低価格もしくは無料での英語スクールをしていたりするので参加する。 ・声に出して英語を読む。英語日記をつける。 ・meetup サイトで地元の面白そうな集まりを探す。
	渡航中に受けるなら TOEIC か、Cambridge か、IELTS か。	日本では TOEIC を指標にする企業が圧倒的に多く汎用性が高いので特別な意図が無いなら TOEIC が良いのではないかな。
現地生活	現地人の交流相手の探し方	・日本人の友人から紹介してもらう。 ・ボランティアに参加する、現地の大学等の日本語学科やサークルにコンタクトする。 ・サイト (meetup ,craigslist など) の活用 ・スポーツサークル、音楽サークル、スポーツジムなどで見つける。
	帰国後の就活に活かせる人脈の作り方	現地の日本人会のような組織にコンタクトをとり交流を深める。日本企業とのパイプを持っている人がいるため、紹介が期待できる。

	現地人や人脈、ランゲージエクスチェンジの相手、現地人コミュニティの探し方	・ 現地の方からの情報収集や、現地のコミュニティに関わっている日本人との接触。 ・ meetup やランゲージエクスチェンジイベントに参加。 ・ ボランティア活動の中で知り合う。 ・ 日本人の友人の紹介。自分の好きなこと（趣味）を習ったり、サークルに参加し知り合う。 ・ 日本人会のような場所に参加。 ・ インターンシップに参加。
帰国時期	希望企業の採用説明会のタイミングに合わせて帰国したほうがよいのか？	大人数相手の一方的な説明会のようなものなら、それが全てではないのでそのためだけに帰国を早めるのはもったいない。気になる企業があるなら予めメールで打診してみるのもよい。
	何月頃帰国した方が就活に有利という目安はあるか？	・ 中途採用では企業ごとの事情次第なので時期はさほど意識する必要はない。 ・ 転職の求人は、通年で有る。有利不利を、あまり考えなくて良い。むしろ、就活に向けての自分のマインド高揚のタイミングが、大事。
再渡航・延長	ビザの延長方法	公的機関（役所、大使館等）で確認する。
	滞在期間の延長	就業目的なら意味があるが、ビジネス英語向上ならあまり勧めない。帰国後の転職のハードルがそれだけ高くなるので、2 年滞在するメリットとデメリットを各 10 個程度書き出して検討するのも良い。
就職活動	自分がしたいこと・やりたいことが見つからない。	・ 様々な職種に対する自分の志向性の一致不一致や、これまでの経験に基づく仕事の軸（価値観や優先順位）を書き出し整理。 ・ まずは求人案内をたくさん見て気になる求人をメモする。そうすると自分の傾向が分かってくる。 ・ 自己理解の作業をしながらキャリアプランを考える。
	就活のスタート時期。	・ 帰国 1 か月前から、海外体験評価シートなどを作成し、渡航中の経験から得られた能力の確認を行う。また、残りの滞在期間で経験できる能力開発のチャンスの整理と目標設定をし行動する。 ・ 中途採用は欠員募集のため、数か月前から応募しても断られる可能性が高い。そのため、本格的には

		じめるのであれば、帰国2、3週間前から興味がある求人エントリーすれば良い。興味のある求人があれば自分の帰国時を伝えて交渉の余地があるか確認することも可能。渡航中スカイプで面接を受け最終面接は日本でというケースもある。 それまでは、実際に、どんな求人があるかを知っておくことはプラスになるので、就活サイトをエントリーのためではなく、仕事調べの意味で活用するとよい。意外な仕事を発見することもある。また、何より渡航中の活動は自分を成長させてくれるので、それ自体も就活の一環だと言える。ゆえに思い切り主体的に活動し生活をエンjoyするのもよいのではないか。
	就職活動の準備	ジョブ・カードを見直しブラッシュアップする。また自己紹介、自己PRを1分で言えるようにする。
	帰国後の就職活動	インターネットや人脈、ハローワークを通し、就職の情報収集を継続する。また自己理解・職業理解を深めると共に、企業研究を実施する。
	アルバイトやインターンシップを職歴に書くべきか、語学学校を学歴に書くべきか？	志望する企業にとってアピール材料となるなら書く。
その他	語学力というより、話す内容（自分の意見や考え、思いを言葉にする）を思いつかない。 深い話が出来ない	・意見を持つことから始める。そのために新聞やニュース記事を読み、その内容に対して自分の考えや感じたことを言葉にする。また、そのことを伝えるための文章を考える。 ・日本のことや自分の好きなこと、自分の意見や考え、思いを言葉にし、英語で言うしてみる。
	不眠が改善されない	精神的なストレスやアルバイトに精を出し過ぎで、殆ど体を休めていない状況であれば、とにかく体を休めることの重要性を伝え、リラクゼーションの方法などを助言。
	語学学校修了後、海外で生活を継続する意欲が下がっている。	時間軸で「残りの滞在時間」「滞在期間中に経験できること」「帰国後にできなくなること」などを言語化し、可視化する。
	インターン付帯の学校	レジュメや面接のノウハウは日本での就活に活かさ

	に行くべきかを迷っている。ビジネス英語の勉強ができると思っていたが、実際はインターン対策の座学で、現地で就職する予定はないので無駄ではないか。	れるのではないかと疑問や自分がやりたいことなど、学校に直接質問したほうが良い。
--	--	--

第7章 就職活動で苦戦する人の傾向

就職活動がなかなか上手くいかない人のタイプについて、渡航前、滞在中、帰国後のフェーズごとにその傾向を分析する。

【渡航前】

・語学習得を目的にしている

→ ほとんどの渡航者が語学習得を渡航理由の一つに挙げているが、それ以外に自分が持ち帰りたいもの、向上したい力などに考えが及んでいない。語学習得だけなら、国内でもいくらでも方法があるので、なぜお金と時間を使ってまで海外に行くのかということをしっかりと考えることが大切である。

・現在の自分について、自己理解ができていない

→ 自分の強み、弱み、価値観、志向など、自己理解に加え、人間力（特に社会人基礎能力など）について、今の自分の状況を認識していれば、渡航後の自分の成長を言語化しやすいはずである。

・渡航先について事前に情報収集しない

→ 学校と住居ばかり気につけ、それさえ決まればあとは現地に行ってから何をするか考えるというケースが多い。今は日本にいてもネットで地域でのボランティア、求人、インターンシップの情報や meetup などの活動情報を入手できるので、渡航前に調べておけば、現地で時間を有効活用できる。

・語学の勉強は渡航してからと思っている

→ 語学学校に通ってから就労するという計画が多々見受けられる。そのため語学学校に通う間に語学力を向上させればよいと思っている。しかし、海外に行ったから直ぐに語学力が飛躍するということはまずない。就労を始める時点での語学力により、就ける仕事の選択肢が大きく左右されるし、現地でのボランティア活動やサークル活動もある程度の語学力がないと有意義な成果は望めない。スタート地点で優位にたてるよう、渡航前から語学学習をしっかりとすることが肝要である。

・渡航資金があまりないにも関わらず、お金は海外で稼げる、稼げばいいと安易に考え渡航しようとしている

→ 現地では生活難から日本人環境の職場で働くことになり、アルバイトに明け暮れる生活となってしまう、日本で働いている状況と同じになってしまう。

・日本で働くのが嫌になり、海外に行くことで解決しようとする

→ 渡航前の職場の離職理由が人間関係（同僚、先輩、上司との不和）による精神的苦痛やそれに伴う体調不良（うつ病など）による場合は、渡航中はリフレッシュしていても、帰国後、就職活動を目前にすると、前職での出来事が想起され、働くことが億劫になるため、一度離職そのものに向き合う必要があると思われる。

上記以外にも以下のようなタイプは帰国後の就職活動に苦戦している。

- ・帰国後のキャリアに関する意識が低い
- ・依存心が強い
- ・心のどこかで長期休暇を取るような意識になっている
- ・現実から逃避して海外に行ったら答えがみつかるのではと漠然と期待を抱いている

【滞在中】

・学校へは通うが、それ以外の活動（就労・ボランティアなど）に消極的

→ 学校へ行き、宿題もこなすこと自体は大事だが、勉強だけならわざわざ海外に行かなくてもできる。せっかく海外に来たのだから、どんどん行動して困難・トラブルを経験することで語学力を高め、その経験でそれ以外の力も向上させることが重要。「学校の勉強が忙しいから」「今は求人が少ないから」「ビザの残り期間が少ないから求人はない」等々、できない理由を探し行動を後まわしにしてはいけない。限られた期間、出来ることを探して動くことが大切である。

・計画や目標なしにダラダラと過ごしている、または計画・目標はあるが振り返りをしない

→ ただ何となくその日その日をエンジョイし過ごしている人は、帰国後の就活で、海外で得た強み、成長したことを言語化することが難しい。日々の行動計画や目標をたてて、それを実行できたかどうか定期的に振り返ることで、自分の成長を確認でき、就活でも論理的に自己PRができるようになる。日々 PDCA（Plan→ Do → Check → Act）を心がけることを勧める。

・特に理由もないのに渡航を伸ばそうとする

→ 永住権やワーキングビザに切り替えて長く住んでいる人やそれを目指している人がけっこういるが、そういう人の話に影響されて漠然と渡航期間を延長しようとするケースが見られる。自分のしたいことや就きたい仕事、また学びたいことがある程度明確で、そのためには海外でないと叶わないということなら問題はない。しかし、ほとんどのケースが「海外に住む」ことが目的になり、そこでのキャリアアップの道や将来どうなりたいか、など長期的な展望が欠けている。逆に海外に長くいればいるほど、帰国した際の就活では

その滞在期間に見合う高い語学力が求められ、その間の活動が重要視されることを肝に銘じておく必要がある。

・語学の資格を帰国後に取得しようと考えている

→ 海外では TOEIC はマイナー資格で受験料も日本より高いので帰国後に受験しようと考えている人が多い。しかし、日本ではまだまだ TOEI で語学力を評価される傾向があるので、TOEIC のスコアを有することを勧める。日本での受験を予定していても、帰国日と試験の日程とが合わない場合や結果が分かるまで3週間ほどかかることもある。そのため、帰国後1～2か月間、TOEIC のスコア無しで就活せざるをえないこともある。よって可能であれば帰国前に TOEIC を受けておくことを勧める。

・就職活動は帰ってからと思っている

→ 就職活動は渡航前から始まっているといっても過言ではない。実際に求人情報を見たり、渡航中の振り返りから自己 PR を書き出すなど、遅くとも帰国の1か月前くらいからは始めることが大切である。海外に行ったからといって、自分のしたい仕事が見つかる人ばかりではない。求人情報や企業情報を見ることで、興味のある仕事・会社をイメージしていくことはとても大事で、その過程で自己分析も進む。

・孤独感のあまり、日本の友人や家族とネット等で年中連絡をとりあっている

→ 国内で過ごしている状況とあまり変わらないのでできるだけシャットアウトするぐらいの気構えが大事。

・自分の否を認めず他責にする

→ ハプニングやトラブルに対して、「他人が悪い」、「制度が悪い」と自分の外側に原因があるという考えで、自分の態度を改めようという発想に乏しく反省がない。就職活動でも応募先のあら探しをしたり、不採用時にはその理由をあまり探求しようとしなない。よって積極的に応募し続けても、結果に結びつきにくい。

・日本は働きにくい、自分は日本に合わないと思い込んでいる

→ 滞在国での働き方にあこがれ、「日本的な働き方」と称して揶揄する。残業などについても全面的に批判的な立場を貫こうとする。このような傾向の人は、帰国が近づいてくると、ビザを切り替えて滞在を延長しようとするなど、日本での就職を回避する。

・相手（キャリア・コンサルタントなど）の時間の配慮に欠けている

→ WEB システムのやりとりでは、メッセージの返信が遅い、またはメッセージが短い。すぐに対応できない事情や理由を適切にタイミング良く伝えようという意識が乏しい。または相手の気持ちに配慮した言い回しができない。

上記以外にも以下のようなタイプは帰国後の就職活動に苦戦している。

- ・日本人と常に行動を共にしている
- ・コーチング等でアドバイスを素直に聞こうとせずに、できない理由ばかり考え言い訳ばかりしている
- ・日本食レストランなど周囲が日本人環境の職場になった時、英語の上達を諦めてしまい、その環境の中で英語力を上達する方法を見つけようとせずに環境に甘んじてしまう
- ・期待通りに伸びない英語力に自信をなくして消極的になってゆく
- ・特に滞在後半になって惰性でアルバイト中心の渡航を続けている
- ・日本は働きにくい、自分は日本にあわないと思い込んでいるが、海外でも何をしたいか明確ではない
- ・帰国前に応募書類の作成を促すも、なかなか着手しない

【帰国後】

・なかなか行動しない

→ 帰国後は体調を崩したり、少しぼーっとする人も多いが、ブランクがあるほど動きにくくなる。渡航の振り返りをしようにも、記憶がどんどん薄れ、経歴書に海外体験で得たことを十分に書けなくなる。海外体験の余韻に浸るばかりでなく、自分のキャリアに活かせるよう、早めに行動することが大切。

・海外での体験が言語化できない

→ 何となく話せるが、書類に落とし込めないという方が多い。渡航中にしっかり計画・目標を立てて行動し、振り返りを習慣づけるよう、メモでもいいので、随時記録しておくことを勧める。

・語学にこだわりすぎる

→ せっかく学んできた語学を使いたいという人は多いが、語学というのはあくまでコミュニケーションツールであるので、それを使って何をしたいか、どう社会に関わっていきたいかということを考えるべきである。また、語学を使える仕事といっても、仕事や会社によって使う頻度が大きく異なり、職務によって異なるので（読み書き重視、会話重視など）具体的にイメージした上で、自分の希望や適性と合うかも考慮すべき。また、現在は不要だが、将来海外に進出する企業もたくさんあるので、「英語力要」と求人票に書いて

いなくても、興味のある会社・仕事であれば応募して将来展望を聞くという姿勢も大切である。

・周囲に相談しようとせずに、自分だけで考え解決しようとしている

→ 視野が狭くなりがちなので良い結果が出づらい。気にせずどんどん相談してみると道が開けることも多々ある。

・自分のやりたい仕事や働く条件にこだわり過ぎてしまう

→ 会社選びにおいて、英語を使う仕事（高度なものでなく電子メールのやりとりぐらいがいい等）、休日日数（海外旅行に行きたいためにシフト制の休日を希望するなど）や福利厚生面に強いこだわりがあり、プライベートを優先しすぎると、当てはまる企業の数限定され、応募社数が少なくなる。

・海外生活の振り返り（海外生活で得られた成長や強みなど）が出来ていない

→ 自分の能力について過小評価または過大評価し、適切に分析できていないため、会社選びに時間がかかる。

・面接などで権利・主義主張ばかりしてしまい、企業への貢献意識が低い

→ 労働市場や雇用側の思いを理解しようとしないうえ、自己PRのポイントが的を射ていない。または、応募書類や面接での発言の言葉選びが不適切のため、活動をしていても内定に結びつきにくい。

上記以外にも以下のようなタイプは帰国後の就職活動に苦戦している。

- ・ 他人と比較し、自分の足りない部分に意識をフォーカスしてしまい、自信喪失している
- ・ 限られた求人サイトのみに依存し、その求人情報のみから探そうとしている
- ・ 不採用が続いたときに、人格まで否定された感覚に陥る
- ・ 面接対策がしっかりできていない
- ・ 同時並行ではなく、1社ずつ就活をしている（1社の結果が出るまで他の会社にエントリーしない）
- ・ 活動量が少ない
- ・ 前職の経験の中での自分の強みを活かそうとしない

第8章 総括

これまでの章を踏まえ、「渡航者のタイプ別コンサルティング」や、「海外体験の棚卸し」、「就職活動のあるべき姿」、「就職活動で苦戦するタイプ」、「就職成功者の特徴」について考察を述べる。

1. 渡航者のタイプ別コンサルティング

自己肯定感とキャリア志向の2軸で4タイプに分けて分類した結果、「見守り型」「応援型」を合わせると78%に達し、キャリア志向が高い層が大半を占めていることがわかった。この2つのタイプの渡航者には適度な距離感で本人の主体性を引き出しながら、適宜客観的な意見を述べたり、就職活動では視野を広げる助言をしたことが功を奏しているようである。また「けん引型」「開眼型」のタイプには小さな成功体験を積み重ねることを勧めその都度称賛しながら、自信をつけさせたり、勤労意欲を喚起するようなアプローチが多く見受けられた。

全ての渡航者を明確に4つのタイプに分類できるわけではないが、一つの指針として参考になるのではないかと思う。

2. 海外体験の棚卸し

海外では日本では得られない様々な体験の機会があるが、珍しい経験や印象深いものだけでなく、日々の生活のちょっとした出来事や課題の克服、継続的な努力などに能力開発のきっかけや自身の成長の過程が見出せる。しかしながら本人は気づかなかつたり、言語化することができなかつたりすることが多い。そのためキャリア・コンサルタントが定期的なコーチングを通じて翻訳していくことで自身の成長プロセスが可視化されるため、就職活動の際に効果的に履歴書に整理できたり、面接で堂々と受け答えできるようになる。

3. 就職活動のあるべき姿

就職活動は帰国してから始まるのではなく、渡航前から始まっていることを認識することが肝要である。渡航前では、自己分析をはじめ、ある程度の語学力をつけておくこと（現地に行けば何とかかなという発想では実り多い活動は望めない）や、渡航動機の明確化、目標の設定などである。滞在中は帰国後にどんな自分でありたいかというイメージから逆算し、今何をすべきなのかが明確になれば、限られた滞在期間を最大限生かそうという発想になるであろう。さらには帰国前から日本の求人情報に目を通したり、メールなどで直接企業へアプローチするなどして帰国後即座に就職活動を始められるような準備をしておくことが望まれる。

4. 就職活動で苦戦するタイプ

Global ACE キャリア・コンサルタントが自身の担当した渡航者のうち、就職活動で苦戦した者の特徴を渡航前～帰国後のフェーズごとに整理した。

渡航前に関しては、無目的・無計画による準備不足や逃避目的が挙げられ、滞在中では、活動が消極的だったり、何事にも不平不満を抱くネガティブな姿勢などが挙げられる。帰国後に関しては、現地生活の振返りが不十分だったり。就職先の選択肢を何となく狭めていたり、しばらく現地の余韻に浸って就職活動が遅れたりすることなどが挙げられる。

5. 就職成功者の特徴

おおむね共通している点は、渡航目的が明確だったため、現地でも日本では得られない体験を積極的に積み、たとえ困難に遭遇してもポジティブに対処することで、成長の糧としている点である。その中で、Global ACE キャリア・コンサルタントとの対話を通じて自身の貴重な経験を言語化・可視化して整理したことが自身の励みになり、さらに次の一歩につながったことがうかがい知れる。

採用時には海外体験自体が大きく評価されたわけではなかったようであるが、その体験を自身が肯定していることで人としての魅力が企業には伝わった結果、満足のいく就職活動につながったのではなかろうか。海外体験がすぐに仕事に生かしているかどうかはケースバイケースのようであるが、企業のグローバル化が進む中、いずれはあの時の経験が存分に発揮できる時が訪れることと思う。

おわりに

今回の事例分析では、就職活動を成功に導く参考となるような要素を複数のアプローチで分析いたしました。過去 2 年間（2013 年度、2014 年度）の事例分析と併せて参照いただくことで、複眼的にキャリア・コンサルティングの在り方や渡航者が留意すべきことなどがお伝えできればと思っております。

当事業を 3 年間執行してきた中で、渡航前のガイダンスと帰国後の企業とのマッチングの重要性を改めて痛感しております。当事業では現地滞在中も国内のキャリア・コンサルタントが定期的にコーチングを行うことで計画的な能力開発を実現しておりますが、この知見をより広く社会に還元するための効果的なプラットフォームをいかに形成するかが今後の課題であります。

今はグローバル人材という言葉をいたるところで耳にしますが、近い将来、海外体験が当たり前になり、グローバル人材という言葉自体がなくなる日がくれば、日本が真のグローバル化になった証ではないでしょうか。

一般社団法人海外留学協議会（JAOS）

「平成 27 年度海外体験を生かしたキャリア形成事例分析」

発 行 日 平成 28 年 3 月

編集・発行所 一般社団法人海外留学協議会（JAOS）

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 6-46 ローベル神楽坂 7F

TEL：03-3269-8446

FAX：03-3269-8447

<http://www.jaos.or.jp>